

(様式第 10)

香大医医第 0038 号
平成 26 年 10 月 2 日

厚生労働大臣

殿

開設者名 国立大学法人香川大学長
長尾 省吾

香川大学医学部附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 25 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒760-8521 香川県高松市幸町1番1号
氏 名	国立大学法人香川大学長 長尾 省吾

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

香川大学医学部附属病院

3 所在の場所

〒761-0793 香川県木田郡三木町大字池戸1750番地1	電話 (087) 898-5111
-----------------------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無					
内科と組み合わせた診療科名等						
1 循環器内科	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
診療実績						

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無					
外科と組み合わせた診療科名						
1 心臓血管外科	2 消化器外科	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
診療実績						

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科	②小児科	③整形外科	④脳神経外科	⑤皮膚科	⑥泌尿器科	⑦産婦人科
8産科	9婦人科	⑩眼科	⑪耳鼻咽喉科	⑫放射線科	13放射線診断科	
14放射線治療科	⑮麻酔科	⑯救急科				

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	有 ・ (無)					
歯科と組み合わせた診療科名						
1 歯科口腔外科	2	3	4	5	6	7
歯科の診療体制 本院では、一般の歯科医院では対応困難な様々な顎口腔領域に生じる様々な疾患の診断と治療を行っており、適切な歯科の診療体制が整っている。 現在常勤歯科医師4名、非常勤歯科医師7名が従事し、平成25年度においては1日あたり平均入院患者9.3人、外来患者43.9人について歯科診療を行っている。						

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 小児外科	2 形成外科	3 病理診断科	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
26床	0床	0床	0床	587床	613床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成26年10月1日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	212人	158人	342.8人	看護補助者	58人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	4人	7人	10.0人	理学療法士	8人	臨床検査技師	36人
薬 剤 師	34人	2人	36.0人	作業療法士	4人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0.0人	視能訓練士	6人	その他	0人
助 産 師	43人	0人	43.0人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	521人	39人	554.2人	臨床工学技師	11人	医療社会事業従事者	5人
准看護師	0人	0人	0.0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	19人
歯科衛生士	2人	0人	2.0人	歯 科 技 工 士	1人	事務職員	68人
管理栄養士	8人	2人	10.0人	診療放射線技師	29人	その他の職員	22人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成26年10月1日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	13人	眼科専門医	14人
外科専門医	27人	耳鼻咽喉科専門医	7人
精神科専門医	7人	放射線科専門医	13人
小児科専門医	12人	脳神経外科専門医	12人
皮膚科専門医	6人	整形外科専門医	13人
泌尿器科専門医	8人	麻酔科専門医	11人
産婦人科専門医	7人	救急科専門医	4人
		合 計	154人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯 科 等 以 外	歯 科 等	合 計
1日当たり平均入院患者数	435.94人	9.34人	445.28人
1日当たり平均外来患者数	893.17人	44.0人	937.2人
1日当たり平均調剤数			553.6錠
必要医師数			100人
必要歯科医師数			2人
必要薬剤師数			15人
必要(准)看護師数			257人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除し

た数を記入すること。

4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。

5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
			病床数	40床	心電計	(有)・無
集中治療室	972.3m ²	鉄筋コンクリート	人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 253.7m ² [移動式の場合] 台数 0台			病床数 17床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 59.5m ² [共用室の場合] 共用する室名 麻薬室、薬務室					
化学検査室	109.2m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ・臨床化学自動分析装置 (東芝メディカルシステムズ TBA-2000FR) ・生化学検査分析装置 (東芝メディカルシステムズ TBA-c16000)			
細菌検査室	85.0m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ・全自動細菌分析装置(バイテック バイテックZ60型) ・MIC画像処理診断システム(栄研化学 IA20MICmk) ・BDバクテックFX (TOP) (日本ベクトン・ディッキンソン 441385)			
病理検査室	250.5m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ・ティシュー・テックプリズマ(サクラ精機 DRS-Prisma-JOS)			
病理解剖室	272.9m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) ・ミーレジェットウオッシャー (ミーレ・ジャパン G7882CD)			
研究室	31.0m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) なし			
講義室	481.0m ²	鉄筋コンクリート	室数	2室	収容定員	407人
図書室	1,672.0m ²	鉄筋コンクリート	室数	7室	蔵書数	137,000冊程度

(注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。

2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成25年4月1日～平成26年3月31日	
紹介率	68.2%	逆紹介率	46.0%
算出根拠 A: 紹介患者の数			9,240人
B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			7,021人
C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			1,156人
D: 初診の患者の数			15,231人

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	自己免疫性血球減少症に対するリツキシマブ療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 自己免疫性血球減少症の難治例の予後改善を目的とする。自己免疫性血球減少症は生命予後に大きく関わること、ステロイド剤が減量困難なことにより引き起こされる感染症などの合併症もまた長期予後を規定するものであることから、本治療による病態の改善は有用性が高いと考えられる。			
医療技術名	術後腸管に対するダブルバルン内視鏡を用いたERCP	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要 術後腸管のため通常ERCPが困難な症例に対してダブルバルン内視鏡を用いてERCPを施行する。			
医療技術名	感染性膵壊死に対する内視鏡的ネクロセクミー	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 感染のコントロールがつかない膵壊死に対して内視鏡的に壊死物質を取り除く。			
医療技術名	肝癌合併腎障害患者に対する炭酸ガス併用抗ガン剤注入療法	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 造影剤を使用できない腎障害患者の肝癌治療を炭酸ガスを用いて行う。			
医療技術名	腹腔鏡補助下胃全層切除術(EFTR)	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 胃内発育型間葉系腫瘍に対して、軟性内視鏡による胃全層切除にて臓器温存を目指した最小限の局所切除を行う。			
医療技術名	大腸内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)	取扱患者数	53人
当該医療技術の概要 適応疾患に準じた大腸腫瘍に対して、内視鏡エキスパートによってESDによる一括根治切除を行う。			
医療技術名	超音波内視鏡下瘻孔形成術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 コンベックス型超音波内視鏡を用いて経消化管的穿刺により瘻孔を形成しドレナージを行う。対象疾患としては膵膿瘍、閉塞性黄疸、腹腔内膿瘍が挙げられる。			
医療技術名	脈管浸潤を伴う高度進行肝癌に対する放射線療法併用肝動注化学療法	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 門脈、肝静脈、胆管への浸潤を伴う高度進行肝癌に対して、同部への限定的放射線照射療法を併用しながら、リザーバー留置による肝動注化学療法を行う。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	肝細胞癌に対するCTガイド下の経皮的ラジオ波焼灼術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 腹部超音波装置にて同定困難な肝細胞癌に対して、CTガイド下に穿刺ラインを誘導し経皮的ラジオ波焼灼療法を行う。			
医療技術名	多系統萎縮症における夜間呼吸障害の評価と治療	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 ポリソムノグラフィーによる夜間呼吸障害の評価とそれに基づく非侵襲的人工呼吸装置の導入を行い、疾患の予後改善に寄与する。			
医療技術名	起立負荷後のAVP反応を用いた自律神経障害の評価	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 起立負荷時のAVPの反応性を基に、中枢性自律神経障害の鑑別を行っている。			
医療技術名	ファブリー病の酵素補充療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 心ファブリー病の心不全患者に対して点滴による酵素補充を2週間毎に行い、心不全増悪予防を行っている。			
医療技術名	皮膚悪性腫瘍の色素法とRI法併用によるセンチネルリンパ節生検	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 色素法とRI法を併用してセンチネルリンパ節をみつけて切除し、組織学的に転移の有無を検討する。			
医療技術名	皮膚悪性腫瘍の集学的治療	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 皮膚悪性腫瘍の外科的手術、化学療法、放射線治療、緩和ケア等による総合的な一連の治療。			
医療技術名	悪性黒色腫の5-S-CD値によるフォロー	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 悪性黒色腫の腫瘍マーカーである5-S-CD値を定期的に測定し、再発の早期発見など患者の経過フォローアップに役立つ。			
医療技術名	重症乾癬患者に対する生物学的製剤(抗TNF- α 抗体など)による治療	取扱患者数	23人
当該医療技術の概要 重症乾癬患者に対し、生物学製剤(抗TNF- α 抗体など)を用いて全身的治療を行う。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	新しい光源による新生児高ビリルビン血症に対する光療法	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 LED光源を用いた、ビリルビンを体外排出型に構造変化させる新しい新生児高ビリルビン血症に対する、より効果的な光療法			
医療技術名	ビリルビンの精密解析	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要 ビリルビンの光異性体、抱合体を高速液体クロマトグラフィーを用いて高精度分析し、新生児高ビリルビン血症の病因、治療効果判定に用いる。			
医療技術名	光学的非侵襲的脳代謝・循環の測定	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 神経学的後遺症の軽減を目的とした、近赤外分光測定法を用いて、新生児の脳循環、代謝を評価。			
医療技術名	新生児溶血性黄疸に対するガンマグロブリン療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 高度新生児黄疸の原因となる溶血性黄疸を、非侵襲的に光を利用した黄疸計で早期に発見し、光療法と共にガンマグロブリン療法を行い、交換輸血を回避させる治療。			
医療技術名	小児急性リンパ性白血病に対する多剤併用化学療法	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 小児で最も多い白血病に対し層別化を行い治癒率の向上と晩期合併症の低下を目標とする。			
医療技術名	小児フィラデルフィア染色体陽性急性リンパ性白血病(Ph+ALL)に対するチロシンキナーゼ阻害剤併用化学療法	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 小児難治性白血病である本疾患に対し分子標的薬と多剤併用化学療法の併用により治癒率を向上させる。			
医療技術名	肝切除手術における画像ナビゲーション	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要 画像ナビゲーションシステム(VINSENT)による肝切除。			
医療技術名	Hybrid NOTESによる胃局所切除	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 軟性内視鏡と腹腔鏡を併用した低侵襲治療。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	気管・気管支形成を伴う肺癌手術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 肺・気管の悪性腫瘍に対して気道再建を伴う手術を行う。			
医療技術名	肺癌患者に対する遺伝子解析に基づいた化学療法	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 肺癌患者に対して遺伝子解析に基づいた化学療法を行う。			
医療技術名	悪性胸膜中皮腫に対する胸膜は胃全摘術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 悪性胸膜中皮腫に対して胸膜肺全摘術を行う。			
医療技術名	局所進行肺癌に対する集学的治療	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 局所進行肺癌に対して放射線化学療法後に肺癌手術を行う。			
医療技術名	乳癌再建を伴う乳癌手術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 形成外科と協力し、乳房再建を伴う乳癌手術を行う。			
医療技術名	気管・気管支形成を伴う肺手術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 肺悪性腫瘍に対し、気管・気管支形成術を伴う肺手術を行う。			
医療技術名	肺癌患者に対する遺伝子解析に基づいた化学療法	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 肺癌に対し、遺伝子解析を行い、これに基づいた化学療法を行う。			
医療技術名	悪性胸膜中皮腫に対する胸膜肺全摘術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 悪性胸膜中皮腫に対し、胸膜肺全摘術を行う。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 悪性脳腫瘍患者に対する抗悪性腫瘍剤耐性遺伝子を検索することにより、個々の患者に効果のあり、さらに副作用の軽減を目的とした治療である。			
医療技術名	重症脳卒中および重症頭部外傷に対する脳低温・平温療法	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 重症脳卒中および重症頭部外傷に対して、脳保護を目的とした脳低温・平温療法である。			
医療技術名	脳神経外科手術に対する術中ナビゲーション	取扱患者数	67人
当該医療技術の概要 手術において、術中ナビゲーションを用いることで、摘出部位や残存腫瘍が把握でき、さらに電気刺激部位の確認による機能温存を考慮した治療法である。			
医療技術名	脳神経外科手術における神経モニタリング	取扱患者数	71人
当該医療技術の概要 脳神経外科手術において、重要な脳神経が損傷されないように、神経を電気刺激してその反応を確認しながら手術を行うことで、より安全確実な手術ができる。			
医療技術名	5-アミノレブリン酸を用いた脳腫瘍手術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要 脳腫瘍手術において、周囲脳との境界が不明瞭な腫瘍では摘出範囲を決定するのが困難であるが、術前に患者にアミノレブリン酸を投与し、術中に偏光顕微鏡を用いることで腫瘍が蛍光認識できるため、確実に腫瘍を摘出することができる。			
医療技術名	ICGを用いた脳血管障害手術	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 脳血管障害の手術において、術中に血行動態を把握するのは通常困難であるが、術中にICGを静脈投与して偏光顕微鏡で観察することで血管が蛍光認識できるため、安全確実に手術を行うことができる。			
医療技術名	脳動脈瘤に対するステントを併用したコイル塞栓術	取扱患者数	10人
当該医療技術の概要 脳動脈瘤の中で、サイズの大きなものや頸部が広いものはコイルのみでの塞栓術は困難であり、ステントを併用することでより確実なコイル塞栓術を行うことができる。			
医療技術名	脳動静脈奇形に対するOnyx embolic systemを用いた塞栓術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 脳動静脈奇形は治療が困難な疾患であるが、液体塞栓物質であるOnyx embolic systemを用いた塞栓術を行うことで、脳動静脈奇形を消失させたり、塞栓術後の摘出術や定位放射線治療の成績を向上させたりすることができる。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	脳梗塞急性期における機械的血栓回収療法	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 脳梗塞急性期における治療はrt-PA治療であるが、これに反応しない症例などに対して、様々な血栓回収器材を用いて閉塞した血管を再開通させることができる。			
医療技術名	神経内視鏡下経鼻的下垂体手術	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 下垂体腺腫等の手術において、従来の顕微鏡を用いた手術にかわり、経鼻的に神経内視鏡を用いることにより、良好な術野で侵襲の少ない手術が可能である。			
医療技術名	人工内耳	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 高度難聴者(児)に音声言語獲得のため、人工内耳装置を内耳蝸牛に埋め込み、リハビリを行う。当該期間内に6名の幼児、2名の成人に実施した。			
医療技術名	肝癌に対する肝動脈塞栓療法	取扱患者数	70人
当該医療技術の概要 肝癌に対してカテーテルを利用して肝動脈塞栓手術を行う。			
医療技術名	肝・骨盤部悪性腫瘍に対するリザーバー設置術	取扱患者数	11人
当該医療技術の概要 肝・骨盤部悪性腫瘍に対するリザーバー設置術。			
医療技術名	高進ヘリカルCTによる3次元画像	取扱患者数	1,980人
当該医療技術の概要 高進ヘリカルCTによる3次元画像。			
医療技術名	免疫抗体によるHER2染色	取扱患者数	102人
当該医療技術の概要 転移性乳癌や乳癌術後及び進行・再発胃癌の補助化学療法。			
医療技術名	EBER in situ hybridization 検査	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要 バーキットリンパ腫・上咽頭癌・ホジキンリンパ腫・T/NKリンパ腫移植後リンパ増殖異常の感染証明。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	免疫抗体によるALK染色	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 非扁平上皮癌の治療に有効な分子標的治療薬適用のための診断。			
医療技術名	超音波内視鏡による細胞診・組織診	取扱患者数	82人
当該医療技術の概要 超音波内視鏡によるon site cytologyとon site biopsyの診断。			
医療技術名	ヒルシユスプリング病のアセチルコリン染色	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 ヒルシユスプリング病の診断。			
医療技術名	腎臓並びに移植腎の特殊染色(アルポート症候群を含む)	取扱患者数	62人
当該医療技術の概要 腎生検・移植腎の腎炎・拒絶反応の診断。			
医療技術名	脳分離循環を伴う大動脈瘤手術	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 脳分離循環を伴う大動脈瘤手術。			
医療技術名	末期的心臓病に対する外科手術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 人工心臓・心臓移植の適応を考慮する末期的心臓病患者に対する僧帽弁手術・左室形成術。			
医療技術名	口腔癌における再建手術	取扱患者数	1人
当該医療技術の概要 口腔癌における再建手術。			
医療技術名	口腔癌における超選択的動注化学療法	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 口腔癌における超選択的動注化学療法。			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	歯の欠損に対する口腔インプラント治療	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要 歯の欠損に対する口腔インプラント治療。			
医療技術名	内視鏡下唾石摘出術	取扱患者数	8人
当該医療技術の概要 内視鏡下唾石摘出術。			
医療技術名	内視鏡下歯根端切除術	取扱患者数	21人
当該医療技術の概要 内視鏡下歯根端切除術。			
医療技術名	緊急体外循環	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 院外心肺停止症例に対して、高度な二次救命処置の最後の手段として行う。			
医療技術名	Targeted Temperature Management	取扱患者数	6人
当該医療技術の概要 心肺停止後脳障害、重症頭部外傷、重症くも膜下出血などの対し二次性脳障害を防止するために行う。			
医療技術名	重症広範囲熱傷に対する植皮術(とくにジェイスを用いる)	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要 全身管理の難しい重症広範囲熱傷に対して、デブリドメント、植皮術を行い、その後全身管理を行う。とくに新しく導入されたジェイス(自己培養皮膚)を用いた治療を行う。			
医療技術名	脳血栓除去療法	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要 脳梗塞治療として行う。			
医療技術名	増殖性硝子体網膜症手術	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 増殖性硝子体網膜症手術			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ペーチェット病	43人	・膿疱性乾癬	8人
・多発性硬化症	83人	・広範脊柱管狭窄症	1人
・重症筋無力症	83人	・原発性胆汁性肝硬変	68人
・全身性エリテマトーデス	110人	・重症急性膵炎	8人
・スモン	1人	・特発性大腿骨頭壊死症	23人
・再生不良性貧血	20人	・混合性結合組織病	24人
・サルコイドーシス	42人	・原発性免疫不全症候群	3人
・筋萎縮性側索硬化症	23人	・特発性間質性肺炎	2人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	125人	・網膜色素変性症	20人
・特発性血小板減少性紫斑病	36人	・プリオン病	4人
・結節性動脈周囲炎	35人	・肺動脈性肺高血圧症	3人
・潰瘍性大腸炎	68人	・神経線維腫症	19人
・大動脈炎症候群	17人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	6人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	1人
・天疱瘡	13人	・慢性血栓性肺高血圧症	6人
・脊髄小脳変性症	33人	・ライソゾーム病	4人
・クローン病	37人	・副腎白質ジストロフィー	0人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	1人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0人
・悪性関節リウマチ	17人	・脊髄性筋萎縮症	0人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	149人	・球脊髄性筋萎縮症	0人
・アミロイドーシス	7人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	23人
・後縦靭帯骨化症	36人	・肥大型心筋症	2人
・ハンチントン病	4人	・拘束型心筋症	0人
・モヤモヤ病(ウィリス動脈輪閉塞症)	26人	・ミトコンドリア病	2人
・ウェゲナー肉芽腫症	13人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	1人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	28人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	1人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	40人	・黄色靭帯骨化症	7人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	3人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、AD H分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	96人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・救急搬送患者地域連携紹介加算
・歯科外来診療環境体制加算	・救急搬送患者地域連携受入加算
・歯科診療特別対応連携加算	・地域歯科診療支援病院入院加算
・特定機能病院入院基本料	・データ提出加算
・臨床研修病院入院診療加算(医科)	・救命救急入院料1
・臨床研修病院入院診療加算(歯科)	・救命救急入院料4
・救急医療管理加算	・特定集中治療室管理料4
・超急性期脳卒中加算	・ハイケアユニット入院医療管理料2
・妊産婦緊急搬送入院加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・診療録管理体制加算2	・小児入院医療管理料2
・急性期看護補助体制加算	・入院時食事療養/生活療養(I)
・看護補助加算	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・無菌治療室管理加算2	・
・緩和ケア診療加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・退院調整加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・植込型除細動器移行期加算	・植込型心電図検査
・高度難聴指導管理料	・胎児心エコー法
・糖尿病合併症管理料	・皮下連続式グルコース測定
・がん性疼痛緩和指導管理料	・時間内歩行試験
・がん患者指導管理料1	・ヘッドアップティルト試験
・がん患者指導管理料2	・長期継続頭蓋内脳波検査
・がん患者指導管理料3	・神経学的検査
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・補聴器適合検査
・糖尿病透析予防指導管理料	・小児食物アレルギー負荷検査
・外来リハビリテーション診療料	・内服・点滴誘発試験
・ニコチン依存症管理料	・センチネルリンパ節生検(単独)
・地域連携診療計画管理料	・画像診断管理加算2
・がん治療連携計画策定料	・ポジトロン断層撮影
・がん治療連携管理料	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・認知症専門診断管理料	・CT撮影及びMRI撮影
・肝炎インターフェロン治療計画料	・冠動脈CT撮影加算
・薬剤管理指導料	・外傷全身CT加算
・医療機器安全管理料1	・心臓MRI撮影加算
・医療機器安全管理料2	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・医療機器安全管理料(歯科)	・外来化学療法加算1
・歯科治療総合医療管理料	・無菌製剤処理科
・持続血糖測定器加算	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)
・造血器腫瘍遺伝子検査	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・がん患者リハビリテーション料
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・歯科口腔リハビリテーション料2

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・認知療法・認知行動療法2	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料 (治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術(レーザーシースを用いるもの)
・医療保護入院等診療料	・両室ペースメーキング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペースメーキング機能付き植込型除細動器交換術
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・経皮的動脈遮断術
・磁気による膀胱等刺激法	・ダメージコントロール手術
・一酸化窒素吸入療法	・腹腔鏡下肝切除術
・CAD/CAM冠	・生体部分肝移植術
・歯科技工加算	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・同種死体膵移植術、同種死体膵腎移植術
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術	・同種死体腎移植術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・生体腎移植術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・膀胱水圧拡張術
・網膜再建術	・人工尿道括約筋植込・置換術
・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術
・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)	・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術
・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、 下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)	・胎児胸腔・羊水腔シャント術
・乳がんセンチネルリンパ節加算2	・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
・経皮的冠動脈形成術	・輸血管管理料 I
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
・経皮的冠動脈ステント留置術	・内視鏡手術用支援機器加算
・経皮的中隔心筋焼灼術	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術	・歯周組織再生誘導手術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・超音波骨折治療法	・
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	100回
剖検の状況	剖検症例数 22例/225 剖検率 9.78%

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
膵β細胞における脂肪毒性解除にむけた治療戦略	村尾 孝児	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科	2,000,000	補委 文部科学省科学研究費
非小細胞肺癌におけるサイトケラチン崩壊による浸潤亢進機序の解明と抗浸潤療法の開発	坂東 修二	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科	1,500,000	補委 文部科学省科学研究費
HIF-1α阻害剤と抗癌剤を併用した新しい白血病幹細胞根絶療法の開発	松永 卓也	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科	1,400,000	補委 文部科学省科学研究費
肺癌細胞の転移浸潤能におけるサイトケラチン8分子の機能解析	石井 知也	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科	500,000	補委 文部科学省科学研究費
癌関連線維芽細胞(CAF)を標的とした胸膜中皮腫の新たな治療法の開発	金地 伸拓	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科	1,200,000	補委 文部科学省科学研究費
レナリドミドと細胞障害性CSF1R抗体を併用した白血病幹細胞根絶療法の開発	松岡 亮仁	内分泌代謝・血液・免疫・呼吸器内科	1,100,000	補委 文部科学省科学研究費
肥満における動脈周囲脂肪組織の挙動と粥状硬化巣の病勢との関連に関する研究	大森 浩二	循環器・腎臓・脳卒中内科	1,300,000	補委 文部科学省科学研究費
食餌性肥満のリバウンド期における脂肪組織の挙動に対する薬物的介入の効果の検討	河野 雅和	循環器・腎臓・脳卒中内科	2,300,000	補委 文部科学省科学研究費
生体腎移植における尿細管老化の検出を目的としたバイオマーカー探索研究	祖父江 理	循環器・腎臓・脳卒中内科	1,000,000	補委 文部科学省科学研究費
近赤外線分光法および電流知覚閾値を用いた新しいパーキンソン病診断法の開発	出口 一志	消化器・神経内科	1,400,000	補委 文部科学省科学研究費
肝細胞がんに対するガレクチン9の抗腫瘍効果の基礎的研究	正木 勉	消化器・神経内科	2,100,000	補委 文部科学省科学研究費
軟性内視鏡による超低侵襲手術の基礎研究および術式確立	森 宏仁	消化器・神経内科	500,000	補委 文部科学省科学研究費
非アルコール性脂肪肝におけるマイクロRNAを標的分子とした診断・治療法の開発	谷 丈二	消化器・神経内科	1,000,000	補委 文部科学省科学研究費
メトフォルミンの抗腫瘍効果の基礎的研究	小林 三善	消化器・神経内科	2,500,000	補委 文部科学省科学研究費
ステロイドによる表皮細胞と血管内皮細胞におけるカベオリン1発現調節	窪田 泰夫	皮膚科	1,500,000	補委 文部科学省科学研究費

ダブルノックアウトマウスを利用したアトピー性皮膚炎モデルマウスの作製	米田 耕造	皮膚科	400,000	補 委	文部科学省科学研究費
皮膚バリア機構破綻アトピー性皮膚炎モデルマウスの酸化ストレス状態と治療	中井 浩三	皮膚科	800,000	補 委	文部科学省科学研究費
軽度認知障害の睡眠構造とアルツハイマー病移行との関係について	新野 秀人	精神科神経科	100,000	補 委	文部科学省科学研究費
抗認知症薬の薬効評価における全般臨床評価法についての研究	中村 祐	精神科神経科	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費
新生児低酸素性虚血性脳症に対する低体温と水素吸入ガス併用療法の効果に関する研究	日下 隆	小児科	900,000	補 委	文部科学省科学研究費
未熟児・新生児貧血に対する脳循環酸素代謝状態に基づく輸血基準の作成を目指して	小谷野 耕佑	小児科	500,000	補 委	文部科学省科学研究費
早産児の乳児期早期における視覚認知機能と発達の予後との関連について	小西 行彦	小児科	600,000	補 委	文部科学省科学研究費
低酸素虚血負荷後の脳循環と脳波測定による脳障害の重症度予測に関する基礎的研究	中村 信嗣	小児科	1,800,000	補 委	文部科学省科学研究費
新生仔豚仮死モデルを使用した新生児低酸素性虚血性脳症の治療戦略の検討	安田 真之	総合周産期母子医療センター	1,000,000	補 委	文部科学省科学研究費
4次元超音波を用いた胎児中枢神経系の発達評価法の確立	秦 利之	周産期科女性診療科	1,500,000	補 委	文部科学省科学研究費
新生児期における腸管の低酸素性虚血障害の病態生理と治療に関する研究	久保 裕之	小児外科	900,000	補 委	文部科学省科学研究費
二層法と希少糖を駆使した膵島移植成績向上のための研究	鈴木 康之	消化器外科	600,000	補 委	文部科学省科学研究費
膵臓癌におけるピック3遺伝子の臨床的意義に関する検討	大島 稔	消化器外科	2,000,000	補 委	文部科学省科学研究費
膵神経内分泌腫瘍における主要遺伝子の臨床的意義に関する検討	岡野 圭一	消化器外科	1,500,000	補 委	文部科学省科学研究費
再生医療を応用した乳幼児肺移植技術の開発	横見瀬 裕保	呼吸器・乳腺 内分泌外科	2,800,000	補 委	文部科学省科学研究費
高圧気相による長期肺保存法の開発	横見瀬 裕保	呼吸器・乳腺 内分泌外科	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費

気管細胞外マトリックスと自己骨髄幹細胞を用いた異種移植気道グラフトの開発と応用	呉 哲彦	呼吸器・乳腺 内分泌外科	900,000	補 委	文部科学省科学研究費
骨軟部肉腫に対する分子標的治療	中村 修	整形外科	900,000	補 委	文部科学省科学研究費
PRPと徐放化FGF-2を併用した体内埋入型チャンバーを用いた血管柄付き組織再生	田中 嘉雄	形成外科・美容外科	1,900,000	補 委	文部科学省科学研究費
脂肪由来幹細胞を用いた高濃度酸素環境下での人工皮弁作成	濱本 有祐	形成外科・美容外科	800,000	補 委	文部科学省科学研究費
PSA監視療法中の前立腺癌患者の病勢増悪予測指標としてのp2PSAの有用性の検討	寛 善行	泌尿器・副腎・腎移植外科	3,400,000	補 委	文部科学省科学研究費
Death Receptor 5を表面マーカーとした末梢循環腎癌細胞検出系の開発	平間 裕美	泌尿器・副腎・腎移植外科	900,000	補 委	文部科学省科学研究費
低分子量GTPase活性光制御法による前立腺癌浸潤転移機構ライブイメージング解析	加藤 琢磨	泌尿器・副腎・腎移植外科	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費
ヒト乳頭腫ウイルス関連頭頸部癌に対する低侵襲な治療法の開発にむけて	星川 広史	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	1,200,000	補 委	文部科学省科学研究費
内リンパ囊の内リンパ静水圧調節機能についての検討	稲本 隆平	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	900,000	補 委	文部科学省科学研究費
in vivo EPR Dosimetryの生体への応用	三宅 実	歯・顎・口腔外科	800,000	補 委	文部科学省科学研究費
生理学的モデルに基づいたバーチャルリアリティによる舌癌手術訓練装置の構築	松井 義郎	歯・顎・口腔外科	900,000	補 委	文部科学省科学研究費
新規希少糖ガムの作製とその口腔内常在性菌に対する作用の研究	小川 尊明	歯・顎・口腔外科	2,200,000	補 委	文部科学省科学研究費
頭頸部癌における低酸素細胞陽性描画を目的としたPET分子イメージング研究	安賀 文俊	放射線診断科	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費
核酸誘導体を用いた脳腫瘍のPET分子イメージング	山本 由佳	放射線診断科	1,500,000	補 委	文部科学省科学研究費
生理食塩水動注による造影MRIの開発	中野 覚	放射線部	700,000	補 委	文部科学省科学研究費
核医学検査時の被験者動きモニターと補正の検討	前田 幸人	放射線部	600,000	補 委	文部科学省科学研究費

高周波超音波を用いた組織歪み評価に基づく新しい心血管組織硬さ計測法の開発	千田 彰一	総合診療科	2,000,000	補 委	文部科学省科学研究費
術後機能的健康状態回復促進因子の検討	白神 豪太郎	麻酔・ペインクリニック科	700,000	補 委	文部科学省科学研究費
細胞膜マイクロドメインを用いた麻酔薬作用機序の解明	小野 純一郎	麻酔・ペインクリニック科	2,000,000	補 委	文部科学省科学研究費
胃瘻からの半固形化栄養材注入法の機序と臨床的意義の検討	合田 文則	総合診療科	300,000	補 委	文部科学省科学研究費
超音波による新しい多臓器包括的老化指標の開発と生活習慣病の総合的管理の効果解析	舛形 尚	総合診療科	1,800,000	補 委	文部科学省科学研究費
脳内酸化ストレス評価に基づく重症脳障害患者の抗酸化治療の有効性に関する研究	黒田 泰弘	救命救急センター	800,000	補 委	文部科学省科学研究費
抗毒素の品質管理及び抗毒素を使用した治療法に関する研究	一二三 亨	救命救急センター	6,930,000	補 委	厚生労働科学研究費
讃岐の丘発信：地域医療実習プログラム改善プロジェクト	泉川 美晴	地域医療教育支援センター	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費
臨床医療におけるオントロジー概念を用いた高次音声認識システムの開発	横井 英人	医療情報部	1,400,000	補 委	文部科学省科学研究費
高精度・低副作用な放射線治療計画を可能とする経時的な線量分布参照システムの開発	上村 幸司	医療情報部	1,100,000	補 委	文部科学省科学研究費
医療機器安全情報の電子化推進に関する研究	横井 英人	医療情報部	3,740,000	補 委	厚生労働科学研究費
コンパニオン体外診断用医薬品の臨床性能試験の在り方に関する再帰的研究	池田 正行	医療情報部	4,860,000	補 委	厚生労働科学研究費
高齢者における脳磁気刺激法を用いた効果的な運動・認知機能訓練法の開発	峠 哲男	健康科学	2,800,000	補 委	文部科学省科学研究費
胃瘻患者の誤嚥性肺炎予防のための超音波下胃蠕動運動計測手段の確立	筒井 邦彦	健康科学	1,700,000	補 委	文部科学省科学研究費
媒介蚊体内でのマラリア原虫の分化・発育誘導に関与するハマダラカ特異的因子の同定	新井 明治	国際医動物学	900,000	補 委	文部科学省科学研究費
クリニカルクラークシップの診療科横断的リアルタイム評価の方法と意義に関する研究	岡田 宏基	医学教育学	1,300,000	補 委	文部科学省科学研究費

腎内ミネラルコルチコイド受容体活性化による腎障害メカニズムの解明	西山 成	薬理学	1,000,000	補 委	文部科学省科学研究費
ヒトiPS細胞を用いたエリスロポエチン産生細胞の検討	人見 浩史	薬理学	1,300,000	補 委	文部科学省科学研究費

計65件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Kameda T	1Division of Endocrinology and Metabolism, Hematology, Rheumatology and Respiratory Medicine, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa	A case of catastrophic antiphospholipid syndrome, which presented an acute interstitial pneumonia-like image on chest CT scan.	Modern rheumatology. 2014 Feb 18. [Epub ahead of print]
2	Kanaji N	1Department of Internal Medicine, Division of Endocrinology and Metabolism, Hematology, Rheumatology and Respiratory Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan. 2Department of Diagnostic Pathology, Faculty of Medicine, Kagawa	Membranous glomerulonephritis associated with Mycobacterium shimoidei pulmonary infection.	The American journal of case reports.2013 Dec 16;14:543-7.
3	Tadokoro A	1Department of Internal Medicine, Kagawa University, Japan.	Paraneoplastic focal segmental glomerulosclerosis in a patient with lung adenocarcinoma.	Internal medicine.2013;52(17):1953-6.
4	Imataki O	1Division of Endocrinology and Metabolism, Hematology, Rheumatology and Respiratory Medicine, Department of Internal Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa	Yersinia pseudotuberculosis enterocolitis mimicking enteropathic gamma delta T-cell lymphoma with abnormal clonality.	BMC Infect Dis. 2014 Jan 27;14:42.
5	Imataki O	Division of Hematology Department of Internal Medicine Faculty of Medicine Kagawa University Kagawa, Japan.	A limited but necessary indication of stem cell transplantation for chronic myelogenous leukemia in the era of tyrosine kinase inhibitors.	Transplantation. 2014 Jan 15;97(1):e4-5.
6	Okamoto N	Department of Cardiorenal and Cerebrovascular Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University.	Prognostic value of circulating regulatory T cells for worsening heart failure in heart failure patients with reduced ejection fraction.	Int Heart J.2014;55(3):271-7. Epub 2014 May 12.
7	Hasan AU	Department of Cardiorenal and Cerebrovascular Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Valsartan ameliorates the constitutive adipokine expression pattern in mature adipocytes: a role for inverse agonism of the angiotensin II type 1 receptor in obesity.	Hypertens Res. Jul;37(7):621-8, 2014, Epub 2014 Mar 6.

8	Nishioka S	Department of Cardiorenal and Cerebrovascular Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Mineral and bone disorder is temporary in patients treated with early rapid corticosteroid reduction after kidney transplantation: a single-center experience.	Transplant Proc.2014 Mar;46(2):514-20.
9	Nishioka S	Department of Cardiorenal and Cerebrovascular Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	The cyclin-dependent kinase inhibitor p21 is essential for the beneficial effects of renal ischemic preconditioning on renal ischemia/reperfusion injury in mice.	Kidney Int. 85(4):871-9, 2014 Apr
10	Sofue T	Division of Nephrology and Dialysis, Department of Cardiorenal and Cerebrovascular Medicine, Kagawa University, Kagawa.	Efficacy and safety of febuxostat in the treatment of hyperuricemia in stable kidney transplant recipients.	Drug Des Devel Ther. 17;8:245-53, 2014 Feb
11	Sofue T	Division of Nephrology and Dialysis, Department of CardioRenal and Cerebrovascular Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa,	Short-term prognosis of living-donor kidney transplantation from hypertensive donors with high-normal albuminuria.	Transplantation. 97(1):104-10, 2014 Jan
12	Hara T	Kagawa University Hospital, Kagawa, Japan.	Hemodialysis Arteriovenous Fistula Created From the Posterior Tibial Artery and a Saphenous Vein Branch.	Am J Kidney Dis. 62(6):1222-3, 2013 Dec
13	Sofue T	Division of Nephrology and Dialysis, Department of CardioRenal and Cerebrovascular Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa,	Latent IgA deposition from donor kidneys does not affect transplant prognosis, irrespective of mesangial expansion.	Clin Transplant. 27 Suppl 26:14-21, 2013 Nov-Dec
14	Moritoki M	Department of Cardiorenal and Cerebrovascular Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Galectin-9 Ameliorates Clinical Severity of MRL/lpr Lupus-Prone Mice by Inducing Plasma Cell Apoptosis Independently of Tim-3.	PLoS One. 8(4):e60807, 2013 Apr 9
15	Kobayashi M	Department of Gastroenterology and Neurology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa 761-0793, Japan.	Antitumor effect of metformin in esophageal cancer: In vitro study.	Int J Oncol. 2013 Feb;42(2):517-24. Epub 2012 Nov 29.
16	Nishiyama N	1Department of Gastroenterology and Neurology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa 761-0796, Japan.	Efficacy and safety of over-the-scope clip: including complications after endoscopic submucosal dissection.	World J Gastroentero 2013 May 14;19(18):2752-60.
17	Mori H	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Medical School, Kagawa, Japan.	Steroid permeation into the artificial ulcer by combined steroid gel application and balloon dilatation: prevention of esophageal stricture.	J Gastroen Hepatol 2013 Jun;28(6):999-1003.

18	Mori H	Department of Gastroenterology and Neurology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Effects of Gastric Irrigation on Bacterial Counts before Endoscopic Submucosal Dissection: a randomized case control prospective study.	PLOS ONE 2013 Jun 7;8(6):e65377.
19	Fujihara S	Department of Gastroenterology and Neurology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa 761-0793, Japan.	The efficacy and safety of prophylactic closure for a large mucosal defect after colorectal endoscopic submucosal dissection.	Oncol Rep 2013 Jul;30(1):85-90.
20	Morishita A	Departments of Medicine and Pathology, Columbia University College of Physicians & Surgeons, New York, USA.	HMGA2 is a driver of tumor metastasis.	Cancer Res 2013 Jul 15;73(14):4289-99.
21	Mori H	Department of Gastroenterology, Kagawa University Medicine School, 1750-1 Ikenobe, Kita, Miki, 761-0793 Kagawa, Japan.	Innovative non-insufflation EFTR: sufficient endoscopic operative field by mechanical counter traction device(with video).	Surg Endosc. 2013 Aug;27(8):3028-34.
22	Tani J	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine, Kagawa, Japan.	Ca(2+) /S100 proteins regulate HCV virus NS5A-FKBP8/FKBP38 interaction and HCV virus RNA replication.	Liver Int 2013 Aug;33(7):1008-18.
23	Mori H	Department of Gastroenterology and Neurology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa 761-0793, Japan.	New flexible endoscopic full-thickness suturing device: a triple-arm-bar suturing system.	Endoscopy 2013 Aug;45(8):649-54.
24	Kobara H	Departments of Gastroenterology and Neurology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Miki, Kagawa 7610793, Japan.	Indications of endoscopic submucosal dissection for symptomatic benign gastrointestinal subepithelial or carcinoid tumors originating in the submucosa.	Mol Clin Oncol 2013 Nov;1(6):1002-1008.
25	Nomura T	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University School of Medicine, Miki-cho, Kitagun, Kagawa 761-0793,	Expression of angiogenic factors in hepatocarcinogenesis: Identification by antibody arrays.	Oncol Rep 2013 Nov;30(5):2476-80.
26	Yoshida S	Division of Gastroenterology and Liver Center, Beth Israel Deaconess Medical Center, Harvard Medical School, Boston, MA.	Sublethal heat treatment promotes epithelial-mesenchymal transition and enhances the malignant potential of hepatocellular carcinoma.	Hepatology 2013 Nov;58(5):1667-80.
27	Fujihara S	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine, Japan.	An iatrogenic sigmoid perforation caused by an aortobifemoral graft mimicking an advanced colon cancer.	Internal Med 2013;52(3):355-7

28	Mori H	Departments of Gastroenterology and Neurology, Kagawa Medical University School of Medicine, Kagawa 761-0793, Japan.	Accurate hemostasis with a new endoscopic overtube for emergency endoscopy.	World J Gastroentero 2013 May 7;19(17):2723-6.
29	Mori H	Departments of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Medical School, Kagawa, Japan.	Successful closing of duodenal ulcer after endoscopic submucosal dissection with over-the-scope-clip to prevent delayed perforation.	Digest Endosc 2013 Jul;25(4):459-61.
30	Fujihara S	of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine/Graduate School of Medicine, 1750-1 Ikenobe, Miki-cho, Kitagun, Kagawa Prefecture 761-0793, Japan.	Life-threatening gastrointestinal bleeding during targeted therapy for advanced renal cell carcinoma: a case report.	BMC Nephrology 2013 Jul 10;14:141.
31	Miyoshi H	Department of Gastroenterology and Neurology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa 761-0793, Japan.	A rare case of hyaline-type Castleman disease in the liver.	World J Hepatol 2013 Jul 27;5(7):404-8.
32	Mori H	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University, Kagawa 761-0793, Japan.	Radical excision of Barrett's esophagus and complete recovery of normal squamous epithelium.	World J Gastroentero 2013 Aug 21;19(31):5195-8.
33	Kobara H	Department of Gastroenterology and Neurology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan	Gastric heterotopic pancreas can be identified by endoscopic direct imaging with submucosal endoscopy.	J Gastrointest Liver 2013 Sep;22(3):345-8.
34	Tani J	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine, Japan.	Multiple Hypervascular FNH-like Lesions in a Patient with No History of Alcohol Abuse or Chronic Liver Disease.	Internal Med 2013;52(19):2225-30.
35	Tani J	Department of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University Faculty of Medicine, Kagawa 761-0793, Japan.	A case of plasmablastic lymphoma of the liver without human immunodeficiency virus infection.	World J Gastroentero 2013 Oct 7;19(37):6299-303.
36	Mori H	Departments of Gastroenterology and Neurology, Kagawa University School of Medicine, Kagawa 761-0793, Japan.	Endoscopic management of a rare granulation polyp in a colonic diverticulum.	World J Gastroentero 2013 Dec 28;19(48):9481-4.
37	Fujihara S	Department of Gastroenterology and Neurology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kitagun, Kagawa, Japan.	Galectin-9 in cancer therapy.	Recent Pat Endocr Metab Immune Drug Discov 2013 May;7(2):130-7.

38	Masugata H	Department of Integrated Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Association between oxidative stress assessed by urinary 8-hydroxydeoxyguanosine and the cardiac function in hypertensive patients without overt heart disease.	Clin Exp Hypertens. 2013;35(5):308-12
39	Masugata H	Department of Integrated Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Relationship between arterial stiffness and variability in systolic blood pressure during a single clinic visit in patients with hypertension.	J Int Med Res. 2013 Apr;41(2):325-33.
40	Masugata H	Department of Integrated Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Clinical significance of differences between home and clinic systolic blood pressure readings in patients with hypertension.	J Int Med Res. 2013 Aug;41(4):1272-80
41	Himoto T	Department of Integrated Medicine, Kagawa University School of Medicine, 1750-1, Ikenobe, Miki-Cho, Kagawa 7610-79, Japan.	Investigation of the factors associated with circulating soluble CD36 levels in patients with HCV-related chronic liver disease.	Diabetol Metab Syndr. 2013 Sep 9;5(1):51.
42	Himoto T	Department of Integrated Medicine, Kagawa University School of Medicine, Kagawa, Japan.	The ratio of insulin-like growth factor-1/insulin-like growth factor-binding protein-3 in sera of patients with hepatitis C virus-related chronic liver disease as a predictive marker of insulin resistance.	Nutr Res 2013 Jan;33(1):27-33.
43	Moriue T	Departments of Dermatology, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Sphingosine 1-phosphate attenuates peroxide-induced apoptosis in HaCaT cells cultured in vitro	Clinical and Experimental Dermatology 2013 Aug;38(6):638-45.
44	Yu Nakamara	Kagawa University, Faculty of Medicine, Department of Neuropsychiatry	Efficacy and safety of memantine in patients with moderate-to-severe Alzheimer's disease: results of a pooled analysis of two randomized, double-blind, placebo-controlled trials in Japan	Expert Opin. Pharmacother 2014 May;15(7):913-25. Epub 2014 Mar 27.
45	Danjo S	Department of Neuropsychiatry, School of Medicine, Kagawa University	Pentylentetrazole-induced loss of blood-brain barrier integrity involves excess nitric oxide generation by neuronal nitric oxide synthase.	Brain Res 2013 Sep 12;1530:44-53.
46	Nakamura S	Department of Pediatrics, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Relationship between early changes in cerebral blood volume and electrocortical activity after hypoxic-ischemic insult in newborn piglets.	Brain Dev. 2014 Aug;36(7):563-71. Epub 2013 Oct 11.
47	Kusaka T	Department of Pediatrics, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Evaluation of cerebral circulation and oxygen metabolism in infants using near-infrared light.	Brain Dev. 2014 Apr;36(4):277-83. Epub 2013 Jun 22.

48	Nakamura S	Department of Pediatrics, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Cerebral blood volume combined with amplitude-integrated EEG can be a suitable guide to control hypoxic/ischemic insult in a piglet model.	Brain Dev. 2013 Aug;35(7):614-25.
49	Koyano K	Maternal Perinatal Center, Department of Pediatrics, Department of Anatomy and Neurobiology, Kagawa University, Kitagun, Kagawa, Japan.	The effect of blood transfusion on cerebral hemodynamics in preterm infants.	Transfusion. 2013 Jul;53(7):1459-67.
50	Ijichi S	Department of Pediatrics, Maternal Perinatal Center, Faculty of Medicine, Department of Laboratory Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Cellular cholesterol levels in platelets before and after liver transplantation in Alagille syndrome complicated by severe hypercholesterolemia.	J Pediatr Gastroenterol Nutr. 2014 Jan;58(1):e9- 10.
51	E Nitta	Department of Perinatology and Gynecology, Kagawa University School of Medicine, 1750-1 Ikenobe, Miki, Kagawa, 761-0793, Japan.	Real-time tissue elastography of uterine sarcoma.	Arch Gynecol Obstet 2014 Feb;289(2):463-5.
52	H Tanaka	Department of Perinatology and Gynecology, Kagawa University School of Medicine, Miki, Kagawa, Japan.	Case of maternal and fetal deaths due to severe congenital thrombotic thrombocytopenic purpura(Upshaw Schulman syndrome)during pregnancy.	J Obstet Gynecol Res 2014 Jan;40(1):247-9.
53	K Kanenishi	Department of Pharmacology, Graduate School of Biomedical & Health Sciences, Hiroshima University, Japan.	4D ultrasound evaluation of fetal facial expressions during the latter stages of the second trimester	Int J Gynecol Obstet 2013;121(4):257- 71.
54	K Kanenishi	Department of Perinatology and Gynecology, Kagawa University School of Medicine, 1750-1 Ikenobe, Miki, Kagawa 761-0793, Japan.	HDlive imaging of intra-amniotic umbilical vein varix with thrombosis.	Placenta 2013 Nov;34(11):1110-2.
55	Izuishi K	Department of Gastroenterological Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University, Miki, Kita, Kagawa 761-0793, Japan.	Molecular mechanisms of [18F]fluorodeoxyglucose accumulation in liver cancer.	Oncol Rep. 2014 Feb;31(2):701-6.
56	Suzuki Y	Department of Gastroenterological Surgery Kagawa University Kagawa, Japan	Ultrasonic Dissection Versus Conventional Dissection Techniques in Pancreatic Surgery: A Randomized Multicentre Study.	Ann Surg. 2013 Nov 20. [Epub ahead of print]
57	Yamamoto N	Department of Gastroenterological Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa.	Clinicopathology of recurrent hepatocellular carcinomas after radiofrequency ablation treated with salvage surgery.	Hepato Res. 2013 Aug 19. doi: 10.1111/hepr.12223. [Epub ahead of print]

58	Okano K	Department of Gastroenterological Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Education and imaging. Hepatobiliary and pancreatic: intrahepatic biliary cystadenocarcinoma.	J Gastroenterol Hepatol. 2013 Apr;28(4):753
59	Akamoto S	Department of Gastroenterological Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	A woman with pruritus ani.	Gastroenterology. 2013 May;144(5):887, 1160-1.
60	Oshima M	Department of Gastroenterological Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Immunohistochemically detected expression of 3 major genes (CDKN2A/p16, TP53, and SMAD4/DPC4) strongly predicts survival in patients with resectable pancreatic cancer.	Ann Surg. 2013 Aug;258(2):336-46.
61	Okano K	Department of Gastroenterological Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University, 1750-1 Ikenobe, Miki-cho, Kita-gun,	Omental flap wrapping with fixation to the cut surface of the liver for reducing delayed gastric emptying after left-sided hepatectomy.	Surg Today. 2013 Dec;43(12):1425-32.
62	Akamoto S	Department of Gastroenterological Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Spontaneous perforation in collagenous colitis.	Surgery. 2014 Jan;155(1):198-9.
63	Kakinoki K	Department of Gastroenterological Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University, 1750-1 Ikenobe, Miki-cho, Kida-gun,	Hand-assisted laparoscopic splenectomy for thrombocytopenia in patients with cirrhosis.	Surg Today. 2013 Aug;43(8):883-8.
64	Akamoto S	Department of Gastroenterological Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University, Ikenobe, Miki-cho, Kita-gun, Kagawa	Extraperitoneal colostomy in laparoscopic abdominoperineal resection using a laparoscopic retractor.	Surg Today. 2013 May;43(5):580-2.
65	Keiichi Kontani	Department of Respiratory, Breast and Endocrine Surgery, Kagawa University Faculty of Medicine, Kagawa University Hospital, Kita-gun, Kagawa 761-	Metronomic chemotherapy for metastatic breast cancer to prolong time to treatment failure to 12 months or more	MOLECULAR AND CLINICAL ONCOLOGY 2013 Mar;1(2):225-230.
66	Tarumi S	Department of general thoracic, breast and Endocrinological surgery, Faculty of medicine Kagawa University, Kagawa, Japan.	Innovative method using circulating tumor cells for prediction of the effects of induction therapy on locally advanced non-small cell lung cancer.	J Cardiothorac Surg. 2013 Jul 16;8:175.
67	Yokomise H	Department of General Thoracic Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University, 1750-1 Ikenobe, Miki-cho, Kita-gun, Kagawa 761-0793, Japan.	Chemotherapy followed by surgery on the basis of biomarker examination for patients with advanced non-small cell lung cancer.	Anticancer Res. 2013 Dec;33(12):5597-602.

68	Tarumi S	Department of General Thoracic Surgery, Breast and Endocrinological Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan	Clinical trial of video-assisted thoracoscopic segmentectomy using infrared thoracoscopy with indocyanine green.	Eur J Cardiothorac Surg. 2014 Jul;46(1):112-5.
69	Kasai Y	Department of General Thoracic, Breast and Endocrinological Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Clinical trial of new methods for identifying lung intersegmental borders using infrared thoracoscopy with indocyanine green: comparative analysis of 2- and 1-wavelength methods.	Eur J Cardiothorac Surg. 2013 Dec;44(6):1103-7.
70	Yoshida C	Faculty of Medicine, Department of General Thoracic, Breast and Endocrinological Surgery, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Three-dimensional computed tomography reveals anatomical variant of meandering pulmonary vein.	Eur J Cardiothorac Surg. 2014 Apr;45(4):759. Epub 2013 Aug 26.
71	Nakamura O	Department of Orthopaedic Surgery, Kagawa University School of Medicine, Miki-Cho, Kagawa, Japan.	Prefabrication of vascularized bone allograft in a recipient rat using a flow-through vascular pedicle, bone morphogenetic protein, and bisphosphonate.	J Reconstr Microsurg 2013 May;29(4):241-8.
72	Yamagami Y	Department of Orthopedic Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Effects of minodronic acid and alendronate on bone remodeling, microdamage accumulation, degree of mineralization and bone mechanical properties in ovariectomized cynomolgus monkeys.	Bone 2013 May;54(1):1-7.
73	Tanaka Y	Department of Plastic and Reconstructive Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Effects of flow patterns and hemodynamic force on vascular endothelium in the temporary arteriovenous shunt loop in rabbits.	J Reconstr Microsurg 2013 Jun;29(5):331-40.
74	Shibuya S	Department of Diagnostic Pathology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	The phytotherapeutic agent, eviprost, suppresses stromal proliferation and inflammation even after establishment of nonbacterial prostatitis in the rat prostate.	Urology. 2014 Mar;83(3):528-34.
75	Hirama H	Department of Urology, Kagawa University Faculty of Medicine, 1750-1 Ikenobe, Miki-cho, Kitagun, Kagawa, 761-0793, Japan,	The impact of baseline [-2]proPSA-related indices on the prediction of pathological reclassification at 1 year during active surveillance for low-risk prostate cancer: the Japanese multicenter study cohort.	J Cancer Res Clin Oncol. 2014 Feb;140(2):257-63.
76	Zhang X	Department of Urology, Kagawa University Faculty of Medicine, 1750-1 Ikenobe, Miki-cho, Kitagun, Kagawa 761-0793, Japan.	Expression and Role of GPR87 in Urothelial Carcinoma of the Bladder.	Int J Mol Sci. 2013 Jun 10;14(6):12367-79.
77	Sugimoto M	Department of Urology, Kagawa University Faculty of Medicine, Kagawa, Japan.	Cellular intermingling between adrenal gland and liver: an infrequent cause of incomplete resection at right adrenalectomy.	J Endourol. 2013 Jun;27(6):804-8.

78	Okubo S	Department of Neurosurgery, University of Michigan Medical School, Ann Arbor, MI 48109-2200, USA.	Cerebral hemorrhage, brain edema, and heme oxygenase-1 expression after experimental traumatic brain injury	Acta Neurochir Suppl. 2013;118:83-7.
79	Kawai N	Department of Neurological Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Cerebral blood flow and oxygen metabolism measurements using positron emission tomography on the first day after carotid artery stenting.	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2014 Feb;23(2):e55-64.
80	Kawai N	Department of Neurological Surgery, Kagawa University, Faculty of Medicine, 1750-1 Miki-cho, Kita-gun, Kagawa, Japan.	Detection of brain amyloid β deposition in patients with neuropsychological impairment after traumatic brain injury: PET evaluation using Pittsburgh Compound-B.	Brain Inj. 2013;27(9):1026-31.
81	Kawai N	Department of Neurological Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kita-gun, Kagawa, Japan.	^{18}F -FDG PET in the diagnosis and treatment of primary central nervous system lymphoma.	Biomed Res Int. 2013;2013:247152.
82	Cao WD	Department of Neurological Surgery, Kagawa University Faculty of Medicine, Japan.	Anti-inflammatory effect of D-allose in cerebral ischemia/reperfusion injury in rats.	Neurol Med Chir (Tokyo). 2013;53(6):365-74.
83	Shinomiya A	Department of Neurological Surgery, Kagawa University Faculty of Medicine, 1750-1 Ikenobe, Miki, Kagawa, 761-0173, Japan,	$3'$ -Deoxy- $3'$ - $[(^{18}\text{F})]$ -fluorothymidine ($[(^{18}\text{F})]$ -FLT) transport in newly diagnosed glioma: correlation with nucleoside transporter expression, vascularization, and blood-brain barrier permeability.	Brain Tumor Pathol. 2013 Oct;30(4):215-23.
84	Cao WD	Department of Neurological Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University, 1750-1, Miki-cho, Kita-gun, Kagawa, 761-0793, Japan.	Relationship of $14\text{-}3\text{-}3\text{zeta}$ (ζ), HIF- 1α , and VEGF expression in human brain gliomas.	Brain Tumor Pathol. 2014 Jan;31(1):1-10.
85	Eri Nitta	Department of Ophthalmology, Kagawa University Faculty of Medicine, Kagawa, Japan.	Displacement of the Retina and Its Recovery After Vitrectomy in Idiopathic Epiretinal Membrane	American Journal of Ophthalmology 2013 Jun;155(6):1014-1020.e1
86	Shino Sato	Department of Ophthalmology, Kagawa University Faculty of Medicine, Miki, Kagawa, Japan.	Correlation between the ganglion cell-inner plexiform layer thickness measured with cirrus HD-OCT and macular visual field sensitivity measured with microperimetry.	Investigative Ophthalmology & Visual Science 2013 Apr 30;54(4):3046-51.
87	Kaori Tenkumo	Department of Ophthalmology, Kagawa University Faculty of Medicine, 1750-1 Ikenobe, Miki, Kagawa, 761-0793, Japan.	Evaluation of relationship between retinal nerve fiber layer thickness progression and visual field progression in patients with glaucoma	Japanese Journal of Ophthalmology 2013 Sep;57(5):451-6

88	Eri Nitta	Department of Ophthalmology, Kagawa University Faculty of Medicine, Miki, Kagawa, Japan.	Aldosterone: a mediator of retinal ganglion cell death and the potential role in the pathogenesis in normal-tension glaucoma	Cell Death & Disease 2013 Jul 4;4:e711.
89	Hoshikawa Hiroshi	Department of Otolaryngology, Faculty of Medicine, Kagawa University, 1750-1, Ikenobe, Miki-cho, Kitagun, Kagawa, 761-0793,	Changes in 18F-fluorothymidine and 18F-fluorodeoxyglucose positron emission tomography imaging in patients with head and neck cancer treated with chemoradiotherapy	Ann Nucl Med 2013 May;27(4):363-70.
90	Hoshikawa Hiroshi	Department of Otolaryngology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	The value of 18F-FLT PET for detecting second primary cancers and distant metastases in head and neck cancer patients	Clin Nucl Med 2013 Aug;38(8):e318-23.
91	Miyashita Takenori	Department of Otolaryngology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa 761-0793, Japan.	Localization and proliferation of lymphatic vessels in the tympanic membrane in normal state and regeneration	Biochem Biophys Res Commun 2013 Oct 25;440(3):371-3.
92	Karaki Masayuki	Department of Otorhinolaryngology Head and Neck Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University, Japan.	Efficacy of intranasal steroid spray (mometasone furoate) on treatment of patients with seasonal allergic rhinitis: comparison with oral corticosteroids	Auris Nasus Larynx 2013 Jun;40(3):277-81.
93	Takashi Norikane	Departments of Radiology , Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Correlation of 18F-fluoromisonidazole PET findings with HIF-1 α and p53 expressions in head and neck cancer:comparison with 18F-FDG PET	Nuclear Medicine 2014 Jan;35(1):30-5.
94	Shigeo Takahashi	Radiation Oncology, Kagawa University Hospital, Kagawa, Japan.	Case reports of portal vein thrombosis and bile duct stenosis after stereotactic body radiation therapy for hepatocellular carcinoma.	Hepatol Res. 2013 Sep 17. [Epub ahead of print]
95	Hayashi T	Department of Diagnostic Pathology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Cytopathologic characteristics of the primary stumal carcinoid tumor of the ovary:a case report with emphasis on differential diagnostic considerations.	Diagn Cytopathol. 2013 Sep;41(9):812-6.
96	Shibuya S	Department of Diagnostic Pathology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	The phytotherapeutic agent, eviprost, suppresses stromal proliferation and inflammation even after establishment of nonbacterial prostatitis in the rat prostate.	Urology. 2014 Mar;83(3):528-34.
97	Yumiko Ohbayashi	Department of Oral and Maxillofacial Surgery, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Adjunct teriparatide therapy with monitoring of bone turnover markers and bone scintigraphy for bisphosphonate-related osteonecrosis of the jaw	Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol 2013 Apr;115(4):e31-7

98	Fukata Y	Department of Advanced Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, 1750-1 Ikenobe Miki-cho, Kita-gun, Kagawa, 761-0793, Japan.	17 β -Estradiol regulates scavenger receptor class BI gene expression via protein kinase C in vascular endothelial cells	Endocrine 2014 Aug;46(3):644-50. Epub 2013 Dec 18.
99	Shinji Kosaka	Department of Pharmacology, Kagawa University Medical School, Kagawa, Japan.	Effects of angiotensin II AT1 receptor blockade on high fat diet-induced vascular oxidative stress and endothelial dysfunction in Dahl salt-sensitive rats	Journal of Pharmacological Sciences 2013;121(2):95-102.
100	Kazunori Yamaguchi	Department of Pharmacy, Kagawa University Hospital, Kagawa, Japan.	Limited Sampling Strategy for the Estimation of Mycophenolic Acid Area Under the Concentration-Time Curve Treated in Japanese Living-Related Renal Transplant Recipients with Concomitant Extended-Release Tacrolimus	Biol. Pharm. Bull. 2013;36(6):1036-9.
101	Iwama H	Life Science Research Center, Kagawa University, Kita-gun, Kagawa, Japan.	Human microRNAs originated from two periods at accelerated rates in mammalian evolution	Mol Biol Evol 2013 Mar;30(3):613-26.
102	Miki T	Department of Anatomy and Neurobiology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Japan	Early postnatal maternal separation causes alterations in the expression of β 3-adrenergic receptor in rat adipose tissue suggesting long-term influence on obesity.	Biochem Biophys Res Commun. 2013 Dec 6;442(1-2):68-71.
103	Ohta K	Department of Anatomy and Neurobiology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan	Prolonged maternal separation disturbs the serotonergic system during early brain development.	Int J Dev Neurosci. 2014 Apr;33:15-21. Epub 2013 Oct 31.
104	Miki T	Department of Anatomy and Neurobiology, Faculty of Medicine, Kagawa University, 1750-1 Ikenobe, Miki-cho, Kagawa 761-0793, Japan.	Early postnatal repeated maternal deprivation causes a transient increase in Ompg and BDNF in rat cerebellum suggesting precocious myelination.	J Neurol Sci. 2014 Jan 15;336(1-2):62-7.
105	Miki T	Department of Anatomy and Neurobiology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Takamatsu, Japan	Short-term ethanol exposure causes imbalanced neurotrophic factor allocation in the basal forebrain cholinergic system: a novel insight into understanding the initial processes of alcohol addiction.	J Neural Transm. 2014 Feb;121(2):201-10.
106	Masaki Ueno	Department of Pathology and Host Defense Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa	Immunoreactivity of glucose transporter 5 is located in epithelial cells of choroid plexus and ependymal cells	Neuroscience, 2014 Feb 28;260:149-57.
107	Haruhiko Sakamoto	Inflammation Pathology, Department of Pathology and Host Defense, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	An immunohistochemical study of human platelets using a rabbit antibody against H18-K24 of apolipoprotein CIII (HATKTAK)	Pathology International, 2013 Aug;63(8):398-407.

108	Araki N	Department of Histology and Cell Biology	Development of an automated fluorescence microscopy system for photomanipulation of genetically encoded photoactivatable proteins (optogenetics) in live cells.	Microscopy (Oxf). 2014 Jun;63(3):255-60. Epub 2014 Feb 11. doi: 10.1093/jmicro/dfu003.
109	Igarashi J	Department of Cardiovascular Physiology, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Dexamethasone induces caveolin-1 in vascular endothelial cells: Implications for attenuated to VEGF	American Journal of Physiology - Cell Physiology 2013 Apr 15;304(8):C790-800.
110	Hashimoto T	Department of Cardiovascular Physiology, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Mifepristone promotes adiponectin production and improves insulin sensitivity in a mouse model of diet-induced-obesity	Plos ONE 2013 Nov 6;8(11):e79724.
111	Uyama T	Department of Biochemistry, Kagawa University School of Medicine, 1750-1 Ikenobe, Miki, Kagawa 761-0793, Japan.	Involvement of phospholipase A/acyltransferase-1 in N-acylphosphatidylethanolamine generation	Biochim Biophys Acta - Mol Cell Biol Lipids 2013 Dec;1831(12):1690-701.
112	Yokohira M	Onco-Pathology, Department of Pathology and Host-Defense, Kagawa University, Kagawa 761-0793, Japan.	Strain differences in pleural mesothelial cell reactions induced by potassium octatitanate fibers (TISMO) infused directly into the thoracic cavity. Exp.	Exp. Toxicol. Pathol 2013 Sep;65(6):925-32.
113	Fuminori Yamaguchi	Departments of Cell Physiology, Faculty of Medicine, Kagawa University, 1750-1 Miki-cho, Kita-gun, Kagawa 761-0793, Japan.	FOXO/TXNIP pathway is involved in the suppression of hepatocellular carcinoma growth by glutamate antagonist MK-801	BMC Cancer 2013 Oct 10;13:468.
114	Fuminori Yamaguchi	Department of Cell Physiology, Faculty of Medicine, Kagawa University, 1750-1, Ikenobe, Miki-cho, Kita-gun, Kagawa, 761-0793,	Suramin is a Novel Activator of PP5 and Biphaseically Modulates S100-Activated PP5 Activity	Appl Biochem Biotechnol 2014 Jan;172(1):237-47.
115	Dong Y	Department of Cell Physiology, Faculty of Medicine, Kagawa University, 1750-1 Ikenobe, Miki-cho, Kita-gun, Kagawa 761-0793, Japan.	The expression of PTEN in the development of mouse cochlear lateral wall.	Neuroscience 2014 Jan 31;258:263-9
116	Kinoshita H	Department of Forensic Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, 1750-1 Miki, Kagawa 761-0793, Japan.	Application of energy dispersive X-ray fluorescence spectrometry (EDX) in a case of methomyl ingestion.	Forensic Sci Int 2013 Apr 10;227(1-3):103-5.
117	Jamal M	Department of Forensic Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, 1750-1, Ikenobe, Miki, Kita, Kagawa 761-0793, Japan.	Ethanol- and acetaldehyde-induced cholinergic imbalance in the hippocampus of Aldh2-knockout mice does not affect nerve growth factor or brain-derived neurotropic factor.	Brain Res. 2013 Nov 20;1539:41-7.

118	Tanaka N	Department of Forensic Medicine, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan.	Finding for current marks: histopathological examination and energy-dispersive X-ray spectroscopy of three cases.	Legal Med. 2013 Sep;15(5):283-7.
119	Kinoshita H	Department of Forensic Medicine, School of Nursing, Faculty of Medicine, Kagawa University, Kagawa, Japan	Xylene; a useful marker for agricultural product ingestion.	Soud Lek. 2013 Oct;58(4):59-60.

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- 2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。
- 5 平成二十六年度中の業務報告において当該実績が七十件未満の場合には、平成二十六年度の改正前の基準による実績についても報告すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	土橋 浩章	内分泌代謝内科	[Serious organ damage and intractable clinical conditions in rheumatic and connective tissue disease—progress in pathophysiology and treatment. Topics: 1. Damage to important organs whose early treatment makes a big difference; 6. Hematopoiesis].	日本内科学会雑誌
2	城下 郊平	内分泌代謝内科	[Picture in clinical hematology no. 70: ALK-positive-undifferentiated-large-cell intravascular lymphoma].	臨床血液
3	木田 潤一郎	内分泌代謝内科	[Picture in clinical hematology no. 69— Case of asymptomatic limbic leukoencephalopathy due to methotrexate therapy]	臨床血液
4	谷内田 達夫	消化器・神経内科	家族性大腸腺腫症における十二指腸病変の検討	家族性腫瘍
5	小原 英幹	消化器・神経内科	消化管壁・全層縫合器Over-The-Scope-Clipシステムの臨床使用経験の検討	日本消化器内視鏡学会雑誌
6	森 宏仁	消化器・神経内科	胃GISTに対するhybrid NOTESの臨床応用と無送気Endoscopic full thickness resectionの開発	日本消化器内視鏡学会雑誌
7	樋本 尚志	総合内科	非アルコール性脂肪肝炎患者における抗核抗体とインスリン抵抗性との関連について	消化器と免疫
8	中村 祐	精神神経医学	アルツハイマー病の中核症状治療(2):メマンチン	BRAIN MEDICAL

9	中村 祐	精神神経医学	軽度および中等度アルツハイマー型認知症患者を対象としたリバスチグミンパッチの漸増期間中における有効性に関する経時的評価(国内Ⅱb/Ⅲ相試験における事後評価)	Pharma Medica
10	中村 祐	精神神経医学	認知症の行動・心理症状(BPSD)の治療	からだの科学
11	日下 隆	小児科	低酸素性虚血性脳症における脳循環・代謝の病態生理とこれからの治療戦略	日本周産期・新生児医学会雑誌(1348-964X)49巻4号 Page1172-
12	伊藤 進	小児科	母乳育児をとりまく諸問題	香川母性衛生学会誌(1346-8243)13巻1号 Page1-12(2013.11)
13	伊藤 進	小児科	小児薬物治療と内服薬処方箋の標準化	日本小児科学会雑誌(0001-6543)117巻10号 Page1544-1550(2013.10)
14	田中 圭紀	周産期科女性診療科	当科における高度肥満妊婦の分娩に関する検討.	香川産科婦人科雑誌
15	真嶋 允人	周産期科女性診療科	IUD長期装着が誘因と考えられる骨盤内放線筋症で子宮悪性腫瘍を疑った1例	香川産科婦人科雑誌
16	田中 宏和	周産期学婦人科学	HTLV-1母子感染予防	香川産科婦人科雑誌
17	塩田 敦子	周産期科女性診療科	うつ病・パニック障害合併妊娠の漢方治療の効果—半夏厚朴湯・抑肝散を中心に—	香川母性衛生学会誌
18	岡野 圭一	消化器外科	高度炎症を伴う慢性胆嚢炎・急性胆嚢炎に対する腹腔鏡下胆嚢摘出術の工夫	消化器外科36, 187-196, 2013
19	鈴木 康之	消化器外科	膵・膵島移植	内科学第十版 矢崎義雄、他編 朝倉書店、pp1776-1777, 2013
20	岡野 圭一	消化器外科	先天性胆道拡張症に対する手術	手術67(6), 853-858, 2013
21	岡野 圭一	消化器外科	その他の膵腫瘍(膵内分泌腫瘍、SPT、転移性膵腫瘍)	消化器外科学レビュー2013 渡邊昌彦、國土典宏、土岐祐一郎 編 総合医
22	鈴木 康之	消化器外科	特集・膵切除をめぐる最近の話題 デバイスを用いた膵切離法	外科76(2), 143-146, 2014
23	岡野 圭一	消化器外科	データ解説;National Clinical Databaseを用いた日本における膵頭十二指腸切除術8,575例からの術後30日内・在院死亡に関するリスクモデル	Frontiers in Gastroenterology 19(3), 54, 2014
24	伊藤 公一	呼吸器・乳腺内分泌外科	Titanium plateを縦方向に用いて胸壁再建を行った胸壁線維肉腫の1例	日本呼吸器外科学会雑誌
25	久保 裕之	小児外科学	腹部造影CT検査で術前診断し、憩室切除を施行した小児上行結腸憩室炎の1例	日本小児外科学会雑誌

26	田中 彩	小児外科学	限局性S状結腸拡張症の1例	日本小児放射線学会雑誌
27	真柴 賛	整形外科	HTO関連 膝OAに対するHTOとUKAの術後成績と満足度 同一患者の術前状態が近似する両膝における比較	日本人工関節学会誌
28	森 正樹	整形外科	UKA成績 人工膝単顆置換術の術後中期成績	日本人工関節学会誌
29	小松原 悟史	整形外科	骨粗鬆症性椎体骨折後の偽関節に対する椎体形成術後の画像所見	Journal of Spine Research
30	中村 修	整形外科	変形性肘関節症に対する肘関節形成術の治療成績	日本肘関節学会雑誌
31	森川 健一郎	整形外科	手指関節内骨折に対する指用創外固定器の使用経験	中部日本整形外科学会雑誌
32	千頭 憲一郎	整形外科	外側型変形性膝関節症に対する大腿骨遠位内反骨切り術の治療成績	中部日本整形外科学会雑誌
33	森 正樹	整形外科	膝蓋大腿関節置換術(PFA)を併用した内側UKAの経験	JOSKAS
34	真柴 賛	整形外科	Bicompartmental UKAの経験と短期成績	JOSKAS
35	千頭 憲一郎	整形外科	HA-TCP塗布Peg tibia componentをスクリーレスで使用したMIS-TKAの術後短期成績	JOSKAS
36	加地 良雄	整形外科	DVRアナトミックプレートによる橈骨遠位端関節内骨折の治療成績	日本手外科学会雑誌
37	西村 英樹	整形外科	上位頸椎損傷の治療経験	中部日本整形外科学会雑誌
38	人羅 俊明	整形外科	分子レベルからみた整形外科疾患(シリーズIX) ヒト骨肉腫細胞株に対するAKT inhibitorの抗腫瘍効果	整形・災害外科
39	田中嘉雄	形成外科・美容外科	当科における糖尿病性病変に伴う虚血肢に対するバイパス術	形成外科
40	田中嘉雄	形成外科・美容外科	血流に対する評価法と治療法の選択	形成外科
41	佐倉 雄馬	泌尿器科	ビカルタミド治療中に乳房痛を発現した前立腺癌患者に対するフルタミドへの変更療法の有用性に関する研究	泌尿器科紀要 2014 Jan;60(1):17-23.
42	林田 有史	泌尿器科	生体腎移植成績に及ぼす透析期間の影響.	日本臨床腎移植学会雑誌 1(1):50-54, 2013

43	杉元 幹史	泌尿器科	生体腎移植成績による腹腔鏡下ドナー腎摘除術-後腹膜鏡下ハンドアシスト法.	臨床泌尿器科 67(8):589-594, 2013
44	杉元 幹史	泌尿器科	前立腺癌:近未来のホルモン療法の可能性.	西日本泌尿器科 75:233-239, 2013
45	加藤 琢磨	泌尿器科	前立腺癌小線源療法術後の下部尿路症状に対するナフトピジル予防投与の有用性の検討.	日本腎泌尿器疾患 予防医学研究会誌 21(1):116-118, 2013
46	松本 淳志	脳神経外科	当院における出血源不明くも膜下出血の検討	Neurosurgical Emergency 18: 30- 34, 2013
47	岡内 正信	脳神経外科	脳神経外科で行われる治療 外科治療 開頭血腫除去術	Brain Nursing 2013 春季増刊: 120-125, 2013
48	藤原 篤之	眼科	Macular Integrity Assessmentを用いた正常網膜感度の検討	日本眼科学会雑誌 118(1):15-21,2014
49	宮下 武憲	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	鼓膜のリンパ管局在、鼓膜再生時の反応	耳鼻咽喉科ニューロ サイエンス 27:48- 49, 2013.5
50	外山 芳弘	放射線医学	【症状からアプローチする画像診断:知って おいてほしいCT/MRI所見】めまい	臨床画像 29巻・10 号・(44-48) 2013.10
51	外山 芳弘	放射線医学	【症状からアプローチする画像診断:知って おいてほしいCT/MRI所見】難聴	臨床画像 29巻・10 号・(49-54) 2013.10
52	室田 真希子	放射線医学	知っておきたい、肺腫瘍CTのピットフォール	画像診断 34巻・ (118-130) 2014.1
53	外山 芳弘	放射線医学	【親しみやすい頭部MRI】後頭蓋窩および 頭蓋底の解剖	画像診断 34巻・5 号・(418-430) 2014.3
54	柴田 徹	放射線治療科	IMRTのピットフォール 頭頸部癌を中心に	臨床放射線
55	武田 敏宏	麻酔・ペインクリニック科	血管穿刺・神経ブロックに必要な超音波ガイドの基本的知識 血管・末梢神経と周囲構成体の見え方	日本臨床麻酔学会 誌 33(3):449-454 2013.5
56	横山 勝教	麻酔・ペインクリニック科	介護福祉施設職員の腰痛と生活の質:香 川県における単施設横断調査	地域環境保健福祉 研究 16(1):37-41 2013
57	古泉 真理	麻酔・ペインクリニック科	コラム:術後に神経障害があったとき--ま ず、障害部位とその範囲を同定すること	Life Support and Anesthesia 20(9):916-920 2013
58	高國 恭子	歯・顎・口腔外科	化学療法時の小児悪性腫瘍患者に対する 専門的口腔ケアの検討	日本口腔ケア学会 誌 8巻1号 Page17- 21(2014.03)
59	松井 義郎	歯科口腔外科学	舌・口底癌切除後再建症例の術後機能に 関する客観的評価 多施設共同研究	日本口腔腫瘍学会 雑誌 26巻1号 Page1-16(2014.03)

60	河北 賢哉	救命救急センター	重症頭部外傷における体温管理の現状: 頭部外傷データベース【プロジェクト 2009】 より	神経外傷
61	新野 秀人	地域連携精神医学	がん患者での睡眠障害の病態(2)	精神科
62	新野 秀人	地域連携精神医学	知っておきたい高齢者の睡眠障害	老年医学
63	新野 秀人	地域連携精神医学	睡眠構造の相違からみた代表的認知症の 鑑別	睡眠医療

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 1 一般的な事項 (1) 本手順書の対象 (2) 指針等の遵守及び倫理審査を受ける義務 (3) 臨床研究に関する代表的な法規・指針・ガイドライン等 (4) 本学部における倫理審査体制 (5) 臨床研究の申請・関連書類（申請書類、報告書等）提出先 (6) 利益相反に関する申告について (7) 臨床研究に関する講習等の受講について (8) 臨床研究登録データベースへの登録について (9) 健康被害に対する補償について (10) 臨床研究に関する報告等について 2 研究計画書の作成 3 倫理審査の申請 4 倫理審査 5 臨床研究の開始前 (1) 臨床研究に関する講習等の受講 (2) 臨床研究の登録 6 臨床研究の実施期間中 (1) 研究計画を変更する場合 (2) 進捗状況等報告 (3) 重篤な有害事象、不具合等が発生した場合 (4) 臨床研究の適正性及び信頼性を確保するために必要な情報の報告 7 臨床研究の終了（中止）後 (1) 終了（中止）報告 (2) 保存試料等の内容を変更した場合	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年4回

- (注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 「③倫理審査委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年中での業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかとすること）。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無

・ 規定の主な内容

香川大学医学部に、臨床研究利益相反委員会を置き、委員会は、臨床研究に係る利益相反審査自己申告書により、利益相反のマネジメントを行う。自己申告書により利益相反が明らかな場合、委員会は、自己申告書に添付された研究計画書等に照らし合わせて適正な臨床研究が実施可能かどうかについて審議し、当事者への助言・指導・勧告等を行う。なお、審議に際し、関係する各倫理審査委員会又は医薬品等臨床研究審査委員会の意見を聴取することができる。また、必要に応じて更なる情報収集、調査及びフォローアップも行うこととしている。

③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況

年 回
※定期開催ではなく、利益相反審査自己申告書により利益相反が明らかな場合にのみ随時開催することとしている。

(注) 「③利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において開催実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況

年 1 回

・ 研修の主な内容

平成26年8月5日にヒトゲノム・遺伝子解析研究倫理審査委員会教育訓練講習会を実施した。また、平成26年10月1日には医学部倫理委員会教育訓練講習会の実施が決定しており、さらに平成26年度2月頃にも実施を予定している。

(注) 「①臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況」に係る報告については、平成二十六年度中の業務報告において実施実績が無い場合には、平成二十六年四月以降の実績を報告しても差し支えないこと(その場合には、その旨を明らかとすること)。

(様式第4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

肝疾患診療部門では、腹部超音波検査（特に肝胆膵領域）、腹部造影超音波検査（ソナゾイド造影）、経皮的肝臓癌局所療法（経皮的ラジオ波焼灼療法、経皮的エタノール注入療法）を習得した者において、肝細胞癌、転移性肝癌に対する経皮的ラジオ波焼灼療法を指導医監督下施行している。造影超音波、Real-time virtual sonographyなどの高度画像処理機能を備えた超音波診断装置を導入し、毎年100例以上の症例において治療経験を積み重ねている。また経皮的局所療法が困難な進行肝細胞癌に対しても、腹部血管造影、動注化学療法などに精通した指導医により、脈管浸潤への局所放射線療法併用でのリザーバー動注化学療法を実施、指導している。

内視鏡診療部門では、上下部内視鏡、拡大内視鏡診断、従来の内視鏡治療（食道静脈瘤硬化療法、内視鏡的粘膜切除、内視鏡的止血術等）を習得した者において、上部消化管癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）を指導医監督下に施行している。特に近年保険収載された大腸ESDは高度な技術を要するため食道・胃のESDを100例以上経験した者が施行できるという基準を設けている。さらに胃内発育型間葉系腫瘍に対して、軟性内視鏡による胃全層切除にて臓器温存を目指した最小限の局所切除を行う腹腔鏡補助下胃全層切除術（EFTR）は、すべての消化管ESDが安全かつ完遂できる技能を有した15年以上の医師に限定している。

胆膵内視鏡部門では、2010年に保険収載された超音波内視鏡下穿刺吸引術を積極的に行っており、最近では本手技を応用した超音波内視鏡下ろう孔形成術（2012年保険収載）も施行している。これらの手技は超音波内視鏡を年間70例以上経験している者の監督の下で施行している。他、術後腸管におけるERCP関連手技に関してもこれまでに100例以上経験した者の監督の下で施行している。

神経内科が扱う特定疾患のうち、もっとも代表的な疾患であるパーキンソン病およびパーキンソン症候群の鑑別を行えるように種々の検査・治療に関する指導を行っている。一般市中病院では施行困難な検査として、系統的な心血管系自律神経機能検査を学ばせ、head-up tilt試験時のカテコラミンおよびAVPの増加反応を指標とした中枢性自律神経障害の評価を行っている。また、多系統萎縮症における夜間呼吸障害をポリソムノグラフィーなどで評価し、非侵襲的人工呼吸装置導入の必要性の判断と、導入後のマネージメントが可能となるように指導を行っている。

- ・皮膚悪性腫瘍の色素法とRI法との併用によるセンチネルリンパ節生検術
- ・皮膚悪性腫瘍の集学的治療と定期的な経過観察体制
- ・重症乾癬に対する生物学的製剤（抗TNF- α 抗体など）による治療

大学病院でリエゾンを含めた総合病院の臨床研修（症状精神病、思春期などの医療保護入院症例を経験）及び精神科病院での研修（措置入院症例が期間内に確実に取れる病院へ派遣）

一般小児領域においては、当院は日本小児血液・がん学会専門医研修病院に指定されており、小児血液がん患者に対する指導体制は十分に整備されている。実際には研修指導医のもと、リスク層別化により適切な強度の化学療法をプロトコールに沿って行う。治療に関連した有害事象に対し適切な支持療法を施行しプロトコールを完遂する。治療後適切な長期フォローアップ外来を施行する。

新生児領域においても、当院は日本周産期・新生児医学会の新生児基幹施設に認定され、新生児黄疸や低酸素性虚血性脳症の診断、加療を指導医のもとで行っている。実際には研修医と指導医が主治医として新生児の診療にあたり、ビリルビンの精密測定の結果の評価や γ グロブリン療法の適応や治療方法を研修する。

- ・麻酔科研修、NICU研修

肝胆膵外科研修時に年間30～50例（H25年は36例）施行している肝切除例においてVINSENTを用いた画像ナビゲーションを経験し、自ら画像作成を行う技術を習得している。上部消化管外科においては、NOTESによる胃切除に参加しその専門技術の研修を行っている。

呼吸器外科における術前・術後管理や、標準的な術式に関する手術技術習得のための研修を行っている。ベッドサイドティーチングや週3回の症例検討に加えて、ドライラボやオンサイトトレ

ーニング、オンジョブトレーニングを行っている。指導は、1名の研修医に対して2名の上級医(いずれも呼吸器外科専門医)によるチーム指導を基本としている。

基礎的な研修を行った後、関連病院、研修病院をローテートしながら外傷、一般整形外科を習得する。

癌治療専門コース、腎移植治療専門コースなど、泌尿器がんの集学的治療と腎移植に精通できる内容で行っている。

- ・脳神経外科手術における高度医療の研修：術中ナビゲーション、神経モニタリング
- ・脳腫瘍の治療における高度医療の研修：5-アミノレブリン酸を用いた脳腫瘍手術、抗悪性腫瘍剤治療における薬剤耐性遺伝子検査
- ・脳血管障害の手術における高度医療の研修：ICGを用いた脳血管障害手術
- ・脳血管内治療における高度医療の研修：脳動脈瘤に対するステントを併用したコイル塞栓術、脳動脈瘤に対するOnyx embolic systemを用いた塞栓術、脳梗塞急性期における機械的血栓回収療法
- ・下垂体部腫瘍手術における高度医療の研修：神経内視鏡を用いた経鼻的下垂体手術
- ・重症脳卒中および重症頭部外傷に対する脳低温・平温療法

各専門分野における最新医療についての理解を深め、網膜硝子体手術や緑内障手術等の専門性の高い手術も経験する。

人工内耳医療に関する知識、手術手技、適応症例の決定の仕方、リハビリ内容について習得を行う。

放射線診療、特に放射線診断に関する研修

麻酔科専門医コース、集中治療専門医コース、ペインクリニック専門医コース

免疫染色によるHER2やALK、EBER染色の染色法や判定法、意義について研修を行った。また、院外で診断された標本のセカンドオピニオンについては、discussion顕微鏡を用いて標準の判定法、鑑別診断、報告書の書き方について研修を行う。

救命救急センターにおいて重症初療室から、CT、カテーテル治療室、救命救急センターICUに至るシームレスな流れの中で、院外心肺停止、心肺停止後脳障害、重症頭部外傷、重症くも膜下出血、重症広範囲熱傷、脳梗塞、などの患者に対する高度医療の研修を行っている。

一般歯科診療、小児歯科診療、障害者・有病者・高齢者の歯科など全人的医療としての歯科医療を習得する。口腔外科的疾患の高度の診断・治療能力を習得する。口腔外科的専門医資格の取得。生涯にわたる意欲的な教育・臨床研究者の育成。

2 研修の実績

研修医の人数	72人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
正木 勉	消化器内科	教授	24年	
米山 弘人	消化器内科	講師	21年	
森 宏仁	消化器内科	講師	18年	
小原 英幹	消化器内科	講師	17年	
森下 朝洋	消化器内科	講師	17年	
鎌田 英紀	消化器内科	助教	15年	胆膵内視鏡
加藤 清仁	消化器内科	助教	11年	胆膵内視鏡
藤森 崇行	消化器内科	助教	10年	胆膵内視鏡
峠 哲男	神経内科	教授	32年	
出口 一志	神経内科	准教授	27年	
鎌田 正紀	神経内科	客員准教授	11年	
窪田泰夫	皮膚科	教授	35年	

中村 祐	精神科神経科	教授	28年
日下 隆	小児科	教授	23年
岡田 仁	小児科	准教授	21年
岩瀬 孝志	小児科	講師	20年
安田 真之	総合周産期母子医療センター	講師	17年
秦 利之	周産期科女性診療科	教授	34年
岡野 圭一	消化器外科	准教授	22年
藤原 理朗	消化器外科	講師	17年
横見瀬 裕保	呼吸器外科	教授	30年
山本 哲司	整形外科	教授	35年
笥 善行	泌尿器・副腎・腎移植外科	教授	33年
田宮 隆	脳神経外科	教授	33年
辻川 明孝	眼科	教授	21年
森 望	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	教授	40年
西山 佳宏	放射線診断科	教授	24年
外山 芳弘	放射線診断科	准教授	26年
山本 由佳	放射線診断科	講師	21年
木村 成秀	放射線部	講師	21年
羽場 礼次	病理診断科	准教授	22年
白神 豪太郎	麻酔・ペインクリニック科	教授	30年
黒田 泰弘	救急科	教授	27年
河北 賢哉	救急科	講師	20年
三宅 実	歯・顎・口腔外科	准教授	26年

第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ① 薬剤部：新薬の適正使用について及び病棟業務研修 ② 放射線部：放射線部勉強会 ・研修の期間・実施回数 ① ・ ② 月4回 ・研修の参加人数 ① 約35名 ② 約30名
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。なお、平成二十六年度中の業務報告においては、平成二十六年四月以降の実績（計画）を報告しても差し支えないこと（その場合には、その旨を明らかにすること）。

(様式第5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
管理責任者氏名	病 院 長 横見瀬 裕保	
管理担当者氏名	総務課長 岡田 俊	医事課長 吉野 紀章
	薬剤部長 芳地 一	放射線部長 西山 佳宏

	保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医学部医事課 薬剤部 放射線部 検査部 病理部 医療情報部	診療録及び診療諸記録を電子媒体にて保存管理している。紙媒体のものについては、外来・入院別に1患者1ファイル方式とし、エックス線写真は1患者1ファイル方式で共に20年を原則として、コンピューターによる集中管理を行っている
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	医学部総務課
	高度の医療の提供の実績	医学部医事課
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医学部総務課
	高度の医療の研修の実績	医学部医事課
	閲覧実績	医学部医事課
	紹介患者に対する医療提供の実績	医学部医事課
第規一則号第一に掲げる十の体制第一項各号及び第九の二十三第一項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医学部医事課及び薬剤部
	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医学部医事課 医療安全管理部
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理部
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理部
当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医学部医事課 地域連携室 医療安全管理部	

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第一項各号及び第九條の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	医療安全管理部 薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部 薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部 薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部 薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	医療安全管理部 ME機器管理センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部 ME機器管理センター
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療安全管理部 ME機器管理センター
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部 ME機器管理センター		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状	
閲覧責任者氏名	医学部事務部長 田辺 勇		
閲覧担当者氏名	医事課長 吉野 紀章		
閲覧の求めに応じる場所	管理棟 1階情報公開室		
閲覧の手続の概要 閲覧日の2週間前までに所定の申込書により申し込み、閲覧承諾書により申請者に通知される。 閲覧には担当者が立ち会い、諸記録の貸し出し及びコピーは行えない。			

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有)・無
・ 指針の主な内容：別紙①のとおり	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 1 回
・ 活動の主な内容： (1) 安全管理のための指針の整備及び情報収集に関すること。 (2) 安全管理のための医療事故等の院内報告制度の整備に関すること。 (3) 安全管理に関する教育及び研修に関すること。 (4) 医療事故の防止及び対策に関すること。 (5) 安全対策マニュアルの実施状況の検証に関すること。 (6) 医療事故発生時の対応方法の整備(事故調査を含む。)に関すること。 (7) 医事問題に係る対策に関すること。 (8) 分析されたインシデントレポートの情報を、速やかに職員に周知及び実行させること。 (9) その他医療事故を含む安全管理に関すること。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 6 5 回
・ 研修の主な内容：別紙②のとおり	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	(有)・無
・ 医療機関内における事故報告等の整備 ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 提出されたインシデントレポートに基づき、専任RMが、毎日現場へ情報確認に行き、現場と共に確認、分析を行う。 重要事例は、医療安全管理部長・病院長へ報告する。 2. 毎週のカンファレンスにおいて、提出されたインシデントレポートを審議し、対応策を検討する。内容によっては専任RMが現場に出向き再度対応、指導を行う。 3. 医療安全管理部員会議において、インシデントの集計、分析、再発防止策を検討し、立案した安全対策を審議する。 4. 医療安全管理部員会議において審議された内容を、医療安全管理委員会にて報告・審議を行う。 5. リスクマネージャー会議において医療安全管理委員会及び医療安全管理部の講じた対策等の情報を周知し、各現場に浸透させる。 6. 安全対策を現場にフィードバックした後、現場巡視し実施状況を確認し評価する。(PDCAサイクルを回す) 7. Safetyニュース発行(毎月)：その月のトピックスを掲載し職員に注意喚起する。 8. 安全対策マニュアルの見直し(年1回)：最新の医療水準に基づいて、内容の見直しを毎年実施している。(RM全員と共に行っている。) 9. 医療安全に関する患者からの苦情対応を行う。	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	(有)(1 名)・無
⑤ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有)(2 名)・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	(有)・無
・ 所属職員：専任(1)名 兼任(22)名 ・ 活動の主な内容： 病院長の下に組織横断的に院内の安全管理を担い、医療安全管理委員会において審議する事項(上記②)に関して、調査、資料作成等を行うとともに、審議結果等に基づく安全管理を実施する。また、医療安全管理委員会に対して安全管理に関する提言を行う。	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	(有)・無

1. 安全管理のための基本方針

本院は、患者さんが安心して医療を受けられる環境を整え、各医療現場において安全
確実な医療を実践・教育する。

医療事故の絶無を期して、現場における責任体制を明確にし、医療事故防止のため
の安全管理体制を病院全体で取り組み確立する。

1 安全管理のための委員会

安全管理及び医療事故の防止・対策について審議するため、医療安全管理委員会を置く。

2 医療安全管理部

医療安全管理委員会が講じた安全対策をリスクマネジャーを通じて速やかに実践徹底させると
共に、医療安全管理委員会に安全対策を提言する。

3 専任リスクマネジャー

本院全体の医療事故防止及び安全管理の任に当たらせるため、医療安全管理部に専任リスクマネ
ジャーを置く。

4 リスクマネジャー

医療安全管理委員会及び医療安全管理部が講じた安全対策等の情報を、各医療現場に浸透させ
るため、また、各医療現場で発生した医療事故及びインシデントの報告及び医療事故防止に関する
問題点等を医療安全管理部及び医療安全管理委員会の審議に反映させるため、各科(部)等にリ
スクマネジャーを置く。

5 安全管理のための職員教育及び研修

医療事故防止手法などの安全管理に関する教育を行うと共に、職員研修を開催する。

6 医療事故発生時の対応

医療事故に関する情報は、速やかに、病院長及び医療安全管理部長に連絡し、報告書を提出する。
医療安全管理委員会は報告書に基づいて、内容・実状を把握し、対応・改善を協議する。

7 安全対策マニュアル

病院関係職員の医療事故防止のため、「安全対策マニュアル」を作成し、周知徹底を図る。
なお、状況等により随時見直しを行うものとする。

8 医薬品安全管理責任者

本院全体の医薬品の安全使用の任に当たらせるため、薬剤部に医薬品安全管理責任者を置く。

9 医療機器安全管理責任者

本院全体の医療機器の安全使用の任に当たらせるため、ME機器管理センターに医療機器安全
管理責任者を置く。

10 患者相談

患者さんからの医療安全管理に関する相談に対して、誠実に対応する。

11 その他

安全管理のための方策を検討し、医療事故防止に努める。

本指針は、患者さん及びその家族等から閲覧の求めがあった場合には、これに応じるものとする。

平成25年度安全管理のための職員研修実施報告

	実施日	対象職員	参加人数	時間	内容
1 卒後臨床研修 オリエンテーション	3月25日	新採用研修医	39名	140分	講義「当院の安全管理体制について」
					講師 医療安全管理部 寛 部長
					実習「インシデントレポートの書き方と事例分析、及びPDA操作について」
					講師 医療安全管理部 舛形GRM・豊嶋GRM
2 卒後臨床研修 オリエンテーション	3月26日	新採用研修医	39名	120分	講義「中心静脈穿刺方法について」 実習「シミュレーターを用いた穿刺練習」
					講師 医療安全管理部 舛形GRM・豊嶋GRM 麻酔科 古泉真理 先生
3 医療安全研修(講義)	3月28日	看護職員	10名	60分	講義「SBARを使用した報告について」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
4 新採用者 初期安全研修	3月28日	新採用看護補助者	5名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
5 新採用者 初期安全研修	3月28日	異動者 (安全担当事務職員)	2名	60分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
6 新採用者 初期安全研修	4月2日	新採用看護職員・ 復帰者	59名	45分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
7 新採用者 初期安全研修	4月16日 4月17日	新採用者・異動者・ 復帰者 (医師・歯科衛生士・ 事務職員・検査助手・ 臨床検査技師・栄養 士・エックス線助手・薬 剤師・薬剤助手・理学 療法士・医療機器操作 員・ 臨床工学技士・外注職 員ソラスト)	68名	45分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」
					講師 医療安全管理部 舛形専任RM・豊嶋専任RM
8 安全管理研修(講義)	4月22日	医師 後期研修医	7名	120分	講義「CVカテーテル挿入実技研修」 講師 日本コヴィディエン株式会社 小川勝巳 医療安全管理部 舛形専任RM
9 安全管理研修(講義)	4月23日	医師 後期研修医	8名	120分	講義「CVカテーテル挿入実技研修」 講師 日本コヴィディエン株式会社 小川勝巳 医療安全管理部 舛形専任RM
10 新採用者 初期安全研修	4月24日	新採用理学療法士	1名	45分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの目的・意義・入力方法」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
11 新採用者 初期安全研修	4月25日	医事課 収納担当外注職員 (ソラスト)	2名	45分	講義 ①「医療安全体制とインシデントレポート入力方法について」 ②「事務職員のインシデントを振り返る」
					講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
12 新採用者 初期安全研修	4月25日	医事課 収納担当・入院担当 外注職員(ソラスト)	12名	45分	講義 ①「医療安全体制とインシデントレポート入力方法について」 ②「事務職員のインシデントを振り返る」
					講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
13 新採用者 初期安全研修	4月26日	医事課 収納担当外注職員 (ソラスト)	2名	45分	講義 ①「医療安全体制とインシデントレポート入力方法について」 ②「事務職員のインシデントを振り返る」
					講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
14 復帰者 安全研修	5月1日	看護職員復帰者	4名	45分	講義「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」
					講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
15 安全管理研修(講義)	5月14日	全職員	674名	60分	講義「平成24年度 インシデント集計報告」 「CV挿入施行医認定制度導入について」 講師 医療安全管理部長 寛 善行・舛形専任RM・豊嶋専任RM
	5月23,27,28, 29,30,31日	全職員 (ビデオ上映会)	341名	60分	

	実施日	対象職員	参加人数	時間	内容
16	5月15日	事務補佐員 外来クラーク 技術補佐員 薬剤助手	6名	45分	講義 ①「医療安全体制とインシデントレポート入力方法について」 ②「過去のインシデントを振り返る」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
17	5月16日	病棟クラーク 外注職員(ソラスト・ニチイ) 事務補佐員	9名	45分	講義 ①「医療安全体制とインシデントレポート入力方法について」 ②「事務職員のインシデントを振り返る」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
18	5月28日	リスクマネジャー	11名	30分	講義 「リスクマネジャー-就任時オリエンテーション」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
19	5月30日	病棟クラーク(派遣)	1名	45分	講義 ①「医療安全体制とインシデントレポート入力方法について」 ②「事務職員のインシデントを振り返る」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
20	5月31日	H25年度 新採用看護職員	50名	120分	講義 「危険予知」 「SBARを使用した報告について」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
21	6月3日	看護職員復帰者	2名	45分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
22	6月4日	栄養士 外注職員(ソラスト)	2名	45分	講義 ①「医療安全体制とインシデントレポート入力方法について」 ②「過去のインシデントを振り返る」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
23	6月10日	外注職員(ソラスト)	1名	45分	講義 ①「医療安全体制とインシデントレポート入力方法について」 ②「事務職員のインシデントを振り返る」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
24	6月17日	技術補佐員 事務補佐員	2名	45分	講義 ①「医療安全体制とインシデントレポート入力方法について」 ②「過去のインシデントを振り返る」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
25	6月20日	看護補助者	40名	60分	講義 「看護補助者の業務に関する医療安全管理について」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
26	6月25日	全職員	521名	60分	講義 「要注意薬の取り扱いについて」 講師 和研製薬(株) 新野秀人 地域連携精神医学講座教授
27	7月1日	看護職員復帰者 " 中途採用者 事務職員 栄養士 病棟クラーク(派遣)	7名	45分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
28	7月2日	中途採用研修医	1名	120分	講義 「当院の安全管理体制について」 講師 医療安全管理部 舛形GRM 講義 「中心静脈穿刺方法について」 実習 「シミュレーターを用いた穿刺練習」 講師 医療安全管理部 舛形GRM 実習 「インシデントレポートの書き方と事例分析、及びPDA操作について」 講師 医療安全管理部 舛形GRM・豊嶋GRM
29	7月16日	看護補助者	2名	45分	講義 「本院の安全管理体制、看護補助者の業務に関する医療安全管理について」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
30	7月19日	技術補佐員	1名	45分	講義 ①「医療安全体制とインシデントレポート入力方法について」 ②「過去のインシデントを振り返る」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
31	7月30日	全職員	396名	60分	講義 「NPPV(非侵襲的換気療法)の過去・現在・未来」 講師 フィリップス・レスピロニクス合同会社 桑山和茂
32	8月1日	中途採用看護師 臨床検査技師 事務補佐員 技術補佐員	4名	45分	講義 ①「医療安全体制とインシデントレポート入力方法について」 ②「過去のインシデントを振り返る」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM

	実施日	対象職員	参加人数	時間	内容
33	8月1日	リスクマネジャー	1名	30分	講義 「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
34	8月2日	看護補助者	2名	45分	講義 「本院の安全管理体制、看護補助者の業務に関する医療安全管理について」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
35	8月16日	看護補助者	2名	45分	講義 「本院の安全管理体制、看護補助者の業務に関する医療安全管理について」 講師 看護管理室 香西 副看護師長
36	9月2日	看護職員復帰者 看護補助者	4名	45分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
37	9月6日	看護職員復帰者 外注職員ソラスト 臨床検査技師	3名	45分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
38	9月11日	医師 後期研修医	1名	120分	講義 「CVカテーテル挿入実技研修」 講師 日本コヴィディエン株式会社 小川勝巳 医療安全管理部 舛形専任RM
39	9月17日	看護補助者	2名	45分	講義 「本院の安全管理体制、看護補助者の業務に関する医療安全管理について」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
40	9月24日	全職員	556名	60分	講義 「救急蘇生について 一院内心停止に対する院内救急医療体制ー」 講師 救命救急センター 副センター長 河北賢哉 急性・重症患者看護専門看護師 桑橋美帆
	9月30日 10月1,3, 9,11日	全職員 (ビデオ上映会)	397名	60分	
41	10月1日	看護職員復帰者・ 中途採用者 看護補助者 外注職員ソラスト 事務補佐員(クラーク)	14名	45分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
42	10月29日	全職員	454名	60分	講義 (1)「輸液製剤の安全使用」 (2)「薬剤部における抗がん剤調製の安全管理について」 講師 (1)テルモ(株)担当者 (2)薬剤部 製剤室主任 田中 裕章
43	10月30日	医師 後期研修医	6名	120分	講義 「CVカテーテル挿入実技研修」 講師 日本コヴィディエン株式会社 小川勝巳 医療安全管理部 舛形専任RM
44	11月1日	看護補助者 外注職員ソラスト 事務補佐員(クラーク)	4名	45分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
45	11月1日	リスクマネジャー	1名	30分	講義 「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
46	11月7日	中途採用・育休復帰医 師	20名	45分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
47	11月18日	医師 後期研修医	2名	120分	講義 「CVカテーテル挿入実技研修」 講師 日本コヴィディエン株式会社 小川勝巳 医療安全管理部 舛形専任RM
48	11月19日	臨床栄養部 管理課給食係	31名	60分	講義 「病院における食物アレルギー対応」 講師 小児科学 西庄佐恵
49	11月21日	看護師	158名	60分	講義 「シリンジポンプ(新機種使用手順)の説明」 講師 テルモ(株)
50	11月21日 11月26日	医師・看護師・ 放射線技師	468名	60分	講義 「医療ガス使用現場でのヒヤリハット事例等」 講師 日本医療ガス協会四国地区本部 講師 高松帝酸(株)多度津事業所所長補佐 山下基光

	実施日	対象職員	参加人数	時間	内容
51	12月2日	看護職員復帰者・ 中途採用者 外注職員ソラスト 外注職員ニチイ	6名	45分	講義 「本院の安全管理体制について、インシデントレポートの入力方法」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
52	12月3日	全職員	461名	60分	講義 (1)「輸液ポンプ・シリンジポンプ安全機能について」 (2)「SpO ₂ とCO ₂ の測定原理と今後の展望」 講師 (1)(株)ムトウテクノス 牛込 陽一 (2)日本光電工業(株)テレメトリ技術センター 進藤 義明
53	12月16日	看護補助者	2名	45分	講義 「本院の安全管理体制、看護補助者の業務に関する医療安全管理について」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
54	12月17日	医師 看護師 臨床栄養部	403名	60分	講義 「病院における食物アレルギー対応」 講師 小児科学 西庄佐恵
55	1月6日	看護補助者	2名	45分	講義 「本院の安全管理体制、看護補助者の業務に関する医療安全管理について」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
56	1月6日	看護師	1名	45分	講義 「本院の安全管理体制、看護補助者の業務に関する医療安全管理について」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
57	1月16日	新採用者・異動者 (事務職員)	4名	45分	講義 「本院の安全管理体制、看護補助者の業務に関する医療安全管理について」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
58	1月30日	輸血認定看護師	4名	30分	講義 「輸血療法における安全管理について」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
59	2月12日	医師 看護師(ICU)	11名	60分	講義 イノバン「シリンジ取り扱いの説明」 講師 共和化学(株)
60	2月12日	看護師(W4・E3)	23名	60分	講義 イノバン「シリンジ取り扱いの説明」 講師 共和化学(株)
61	2月13日	看護師(QQ)	12名	60分	講義 イノバン「シリンジ取り扱いの説明」 講師 共和化学(株)
62	2月25日	全職員	454名	60分	講義 (1)「CT検査の安全管理について 一造影剤の注意点一」 (2)「MRIの安全管理について 一磁性体吸着事故の恐怖一」 講師 (1)放射線部主任技師 助石宙志 (2)放射線部副技師長 小川和郎
63	3月3日	看護師 薬剤部技術補佐員 外注職員ニチイ	5名	45分	講義 「本院の安全管理体制、看護補助者の業務に関する医療安全管理について」 講師 医療安全管理部 豊嶋専任RM
64	3月10日	全職員	425名	60分	講義 (1)「抗菌薬使用の極意」 (2)「誰でもできる手指衛生」 講師 (1)感染症講座准教授 横田恭子 (2)感染対策室看護師長 田中ひとみ
65	3月18日	リスクマネジャー	2名	30分	講義 「リスクマネジャー就任時オリエンテーション」 講師 医療安全管理部 舛形専任RM

(様式第6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
・ 指針の主な内容：別紙③のとおり	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年11回
・ 活動の主な内容： (1) 院内感染の調査、予防及び防止に関すること。 (2) 感染予防の実施、監視及び指導に関すること。 (3) 感染症発生時の措置に関すること。 (4) 院内職員の教育及び啓蒙に関すること。 (5) 消毒剤の使用に関すること。 (6) HIV感染及びAIDSに係る職員の教育・啓蒙に関すること。 (7) HIV・AIDS診療に従事する人材の育成に関すること。 (8) HIV・AIDS診療に係る県内各拠点病院との連携の実施に関すること。 (9) その他感染予防に関すること。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年2回+採用時+適宜
・ 研修の主な内容： ・ 手洗い演習、防護具の着用、廃棄物処理、針刺し事故発生時の対応、安全器材について ・ TDMガイドラインに基づくバンコマイシンおよびテイコプラニンの初期投与設計とモニタリングのポイント ・ 感染予防の基礎知識 ・ 病院での感染防止対策 ・ 静脈注射における感染防止対策 ・ 感染対策の重要性、感染対策のための組織 ・ 標準予防策、経路別予防策 ・ 感染対策の基本、職業感染、サーベイランス ・ 看護マネジメント学、感染管理 ・ 感染対策（予防）の重要性 ・ 感染対策の実際 ・ 病棟の手洗い ・ 抗菌薬使用の極意、誰でもできる手指衛生 ・ MRSA感染症の治療、個人防護具の使用方法 ・ 看護師が知っておきたい感染症、診療の基本 ・ 看護師が知っておきたいMRSA感染症の治療 ・ 病院感染対策に必要な微生物 ・ 洗浄、消毒、滅菌	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 感染対策室員会議、感染制御委員会で各病棟毎にMRSA等耐性菌の検出状況を報告し、どのような対策が講じられているかを調査している。この結果を院内の各委員に報告、フィードバックしている。 感染症発生報告の内容によってICNが現場へ出向き対応、指導を行う。必要に応じてICTが招集され対策を検討、ICN・ICD・ICTが協力して対応にあたる。適宜、病院長、感染制御委員会、各関係会議等へ報告を行う。	

感染対策のための指針

香川大学医学部附属病院は、病院の理念に基づき、感染防止および感染制御の対策に取り組むことで、患者および病院職員に安全で快適な医療環境を提供する。

そのための基本的な考え方を以下に定める。

1. 感染対策に関する基本的な考え方

病院感染の発生を未然に防ぎ、感染症発生時に拡大を防止するためには、その原因を速やかに特定し、早期に制圧することが重要である。そのため、感染防止対策を職員全員が把握し、病院の理念に則った医療が提供できるよう取り組む。

2. 感染対策の推進のために必要な基本方針

職員は、院内感染予防マニュアルに沿って、手洗いの徹底、マスク、手袋等の着用など、常に感染予防策の遵守に努める。

職員は、自らが感染源とならないよう、定期健康診断を受診し、健康管理に努める。

院内感染予防マニュアルは、定期的に見直しを行い、病院職員へ周知徹底を図る。

3. 感染対策のための委員会等の組織に関する基本的事項

香川大学医学部附属病院感染制御委員会規定に基づき、感染制御委員会を設置し、病院感染の調査、感染予防の実施、発生時の措置等に関する審議・決定を行う。

病院感染等の発生防止に関する業務を迅速かつ機能的に実行するために、感染対策室を設置する。

4. 感染対策のための職員研修に関する基本方針

感染防止対策の基本的な考え方および防止対策に対する意識の向上を図るために、全病院職員対象の研修会を年2回開催するほか、必要に応じて随時開催する。研修の開催結果を記録し、保存する。

5. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針

耐性菌および市中感染症等の院内発生に伴う感染拡大を防止するため、感染症発生状況を感染制御委員会および感染対策室を通じて、病院職員に定期的に通知する。また、感染制御システムにより、随時情報提供を行う。

6. 病院感染発生時の対応に関する基本方針

病院感染が発生した部署の病院職員は、直ちに感染対策室へ報告する。感染対策室は、状況および対応を病院長ならびに感染制御委員会に報告する。感染対策室および発生部署の病院職員は、速やかに発生の原因を究明し、改善策を立案し実施する。

感染対策室は、発生状況および改善策の実施結果について感染制御委員会、電子メールおよび紙媒体を通じて全職員に速やかに周知する。

7. 患者等に対する本指針の閲覧に関する基本方針

本指針は、院内感染予防マニュアルおよびホームページに掲載する。

(別紙3)

付 則

この指針は、平成19年7月1日より施行する。

平成21年3月1日より一部改定、施行する。

平成23年7月1日より一部改定、施行する。

平成25年12月1日より一部改定、施行する。

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 1 2 回
・ 研修の主な内容： 医薬品の安全使用を目的とし、各病棟職員または病院職員全体を対象とした研修を行っている。	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 (有・無) ・ 業務の主な内容： 1) 医薬品の採用と購入 2) 医薬品の管理 3) 投薬指示と調剤 4) 患者に対する服薬指導 5) 医薬品の安全使用に係る情報の取り扱い(収集・提供) 6) 他施設との連携の各業務について適正に実施している。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1) 薬剤部ニュース(月1回)を全診療科に配布している。 2) 急を要する連絡は文書と院内Webで通知している。 3) 薬事委員会で院内採用薬の見直しを行っている。 4) 院内での副作用発生事例については情報を収集し、厚生労働省および当該医薬品メーカーへ報告を行っている。 5) 医薬品安全管理委員会(薬事委員会)を設置、年4回開催している。	

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年100回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>業者の協力を得て、新しい医療機器の使用が予定される部署、職員等を対象に研修を実施している。</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>機種別に保守点検の周期を設け、定期的に点検を実施し、記録を保存している。業務委託による保守点検においては実施状況等の記録を保存し、管理状況を把握している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>ニュース「ME機器管理センターからのお知らせ」を説明のうえ、各病棟、部署に配布している。必要に応じてリスクマネージャー会議で周知徹底を行っている。また、人工心肺装置及び補助循環装置等、対象部署が限局される事項については、その都度通知文を回覧し周知徹底している。</p> <p>K-MINDにてマニュアル、添付文書、ニュース、お知らせを掲載している。</p>	

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 公益財団法人日本医療機能評価機構 2014年2月19日～2014年2月20日	

(注)医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 ホームページ上に「高度、先進医療を提供する『特定機能病院』として、急性期医療や高度な医療を担うとともに、香川県の基幹病院として地域の医療機関と連携」と受診希望の患者向けのお知らせを掲載している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 三次救急医療機関として、ER、救急専従医がチームとして常時診療に従事する体制を整え、緊急性、専門性の高い脳卒中や心筋梗塞、高エネルギー外傷、熱傷等の複数の診療科にわたる疾病に対する高度な専門的医療を総合的に実施。 他施設で診断の確定に至らなかった場合、セカンドオピニオンを求めたい場合、専門診療科への円滑な橋渡しなど、地域に開かれた体制でインフォームド・コンセントのもとにEBMに対応できる総合内科。 都道府県がん診療連携拠点病院としてがん診療連携拠点病院としての定期的な開催。 横断的職種で形成されたNST、緩和ケア、褥瘡、在宅支援チームの活動。	